

浜田市における公共交通の現状
(公共交通計画策定に向けた基礎分析結果)

令和5年10月

目次

第1章	浜田市の現状整理	1
1.	人口と高齢化率	1
2.	移動の目的地となる立地状況	5
3.	地域の道路網	9
4.	上位・関連計画におけるまちづくりの方向性	10
第2章	公共交通の現状整理	13
1.	公共交通の整備状況	13
2.	公共交通の利用状況	18
第3章	市民の移動実態・公共交通に対する意識・ニーズ	26
1.	市民アンケート調査の概要	26
2.	回答者の属性	26
3.	移動の状況	27
4.	公共交通の利用状況	33
5.	敬老乗車券の利用状況	35
6.	今後の浜田市における公共交通の維持確保や取組への意向	37
第4章	現状整理と今後の予定	39
1.	現状からわかること	39
2.	今後の調査及び計画策定の方向性	39

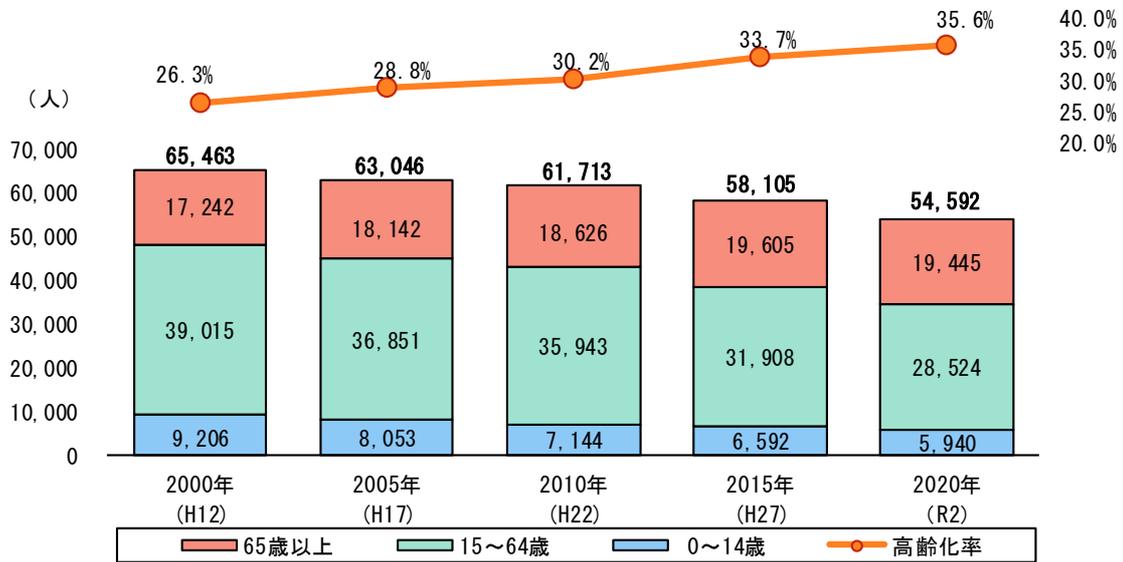
第1章 浜田市の現状整理

1. 人口と高齢化率

(1) 人口動向

① 人口推移

- 令和2年（2020年）国勢調査の人口は約54,592人と、平成22年（2010年）からの10年間で約7,100人（約12%）減少しています。
- 令和2年の高齢化率（65歳以上の人口割合）は35.6%と、平成22年からの10年間で5.4ポイント上昇しており、高齢化が進んでいる状況です。
- 地域別の人口について、令和2年までの10年間の増減率で見ると、旭地域と弥栄地域が20%台以上と大きく減少しています。
- 令和5年（2023年）9月時点の総人口は49,907人となっており、現時点で50,000人を下回っている状況です。



資料：国勢調査、令和4年度統計はまだ

図 人口推移

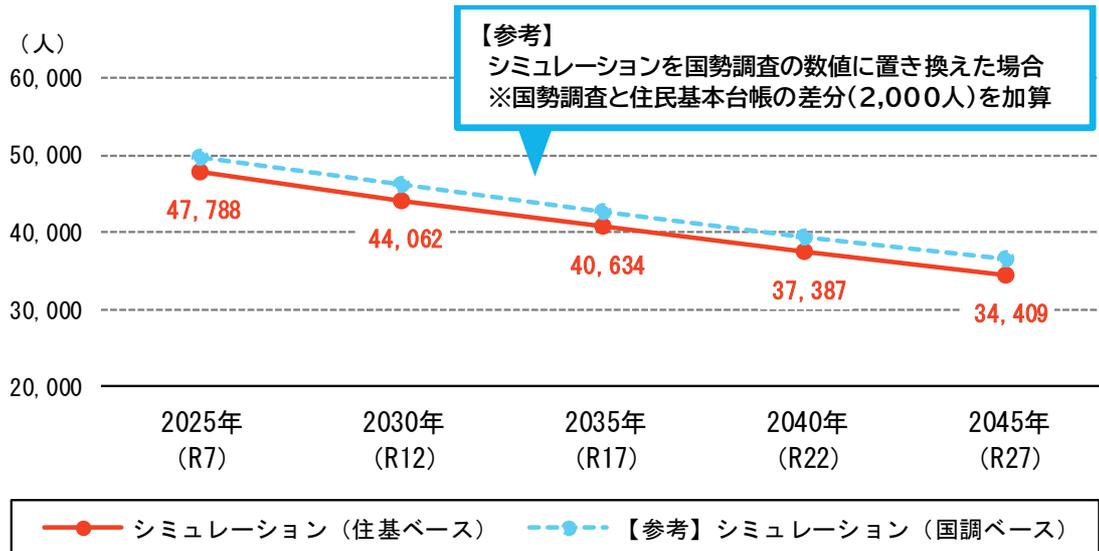
表 地域別人口

地域	H17年	H22年	H27年	R2年	増減比	
					H22年比	H27年比
浜田	45,910	43,905	41,777	39,370	-10.3%	-5.8%
金城	4,976	4,622	4,426	4,088	-11.6%	-7.6%
旭	2,978	4,888	4,243	3,510	-28.2%	-17.3%
弥栄	1,612	1,494	1,343	1,168	-21.8%	-13.0%
三隅	7,570	6,804	6,316	6,456	-5.1%	2.2%
計	63,046	61,713	58,105	54,592	-11.5%	-6.0%

資料：国勢調査

② 人口シミュレーション

- 第2次浜田市総合振興計画では、住民基本台帳をベースとした人口シミュレーション(人口推計)を行っており、令和12年(2030年)には総人口は44,062人まで減少すると予想されています。



資料: 第2次浜田市総合振興計画(人口ビジョン)

図 人口シミュレーション

(2) 人口分布

- 浜田駅を中心に市街地が形成されるとともに、国府地区から周布地区にかけて国道9号及びJR山陰本線沿線に人口が集積しています。また、金城支所、旭支所、三隅支所周辺にも集積がみられます。

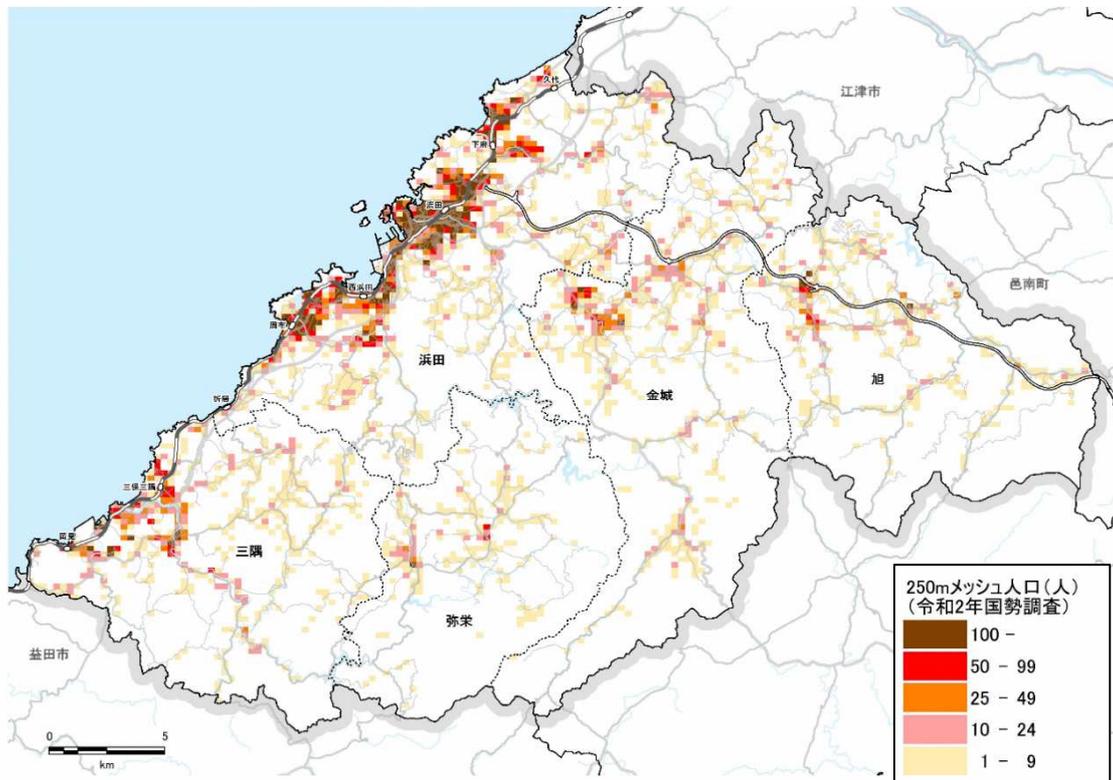


図 人口分布

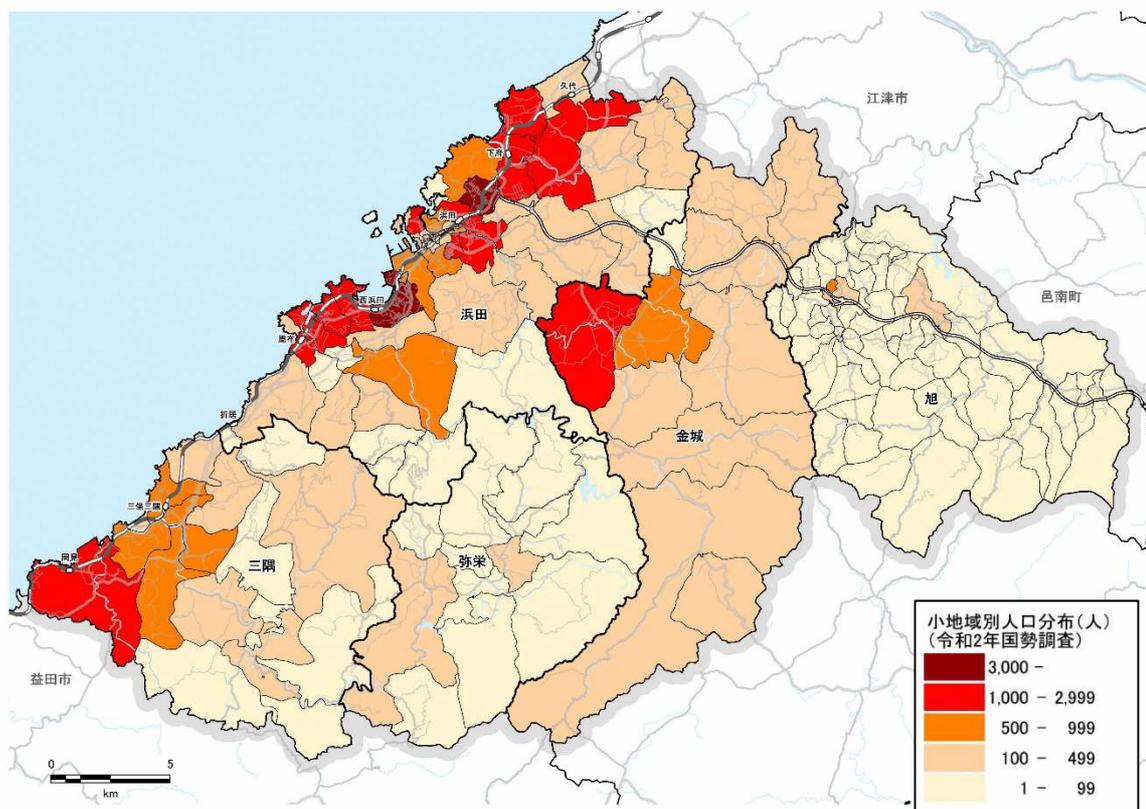


図 小地域別人口分布

(3) 高齢化の状況

- 地域の中心部から離れた場所において、高齢者人口の割合が比較的高くなっています。
- 地域別に見ると、浜田地域以外の地域においては、高齢者人口の割合が50%を占めている地区が地域の大部分を占めています。

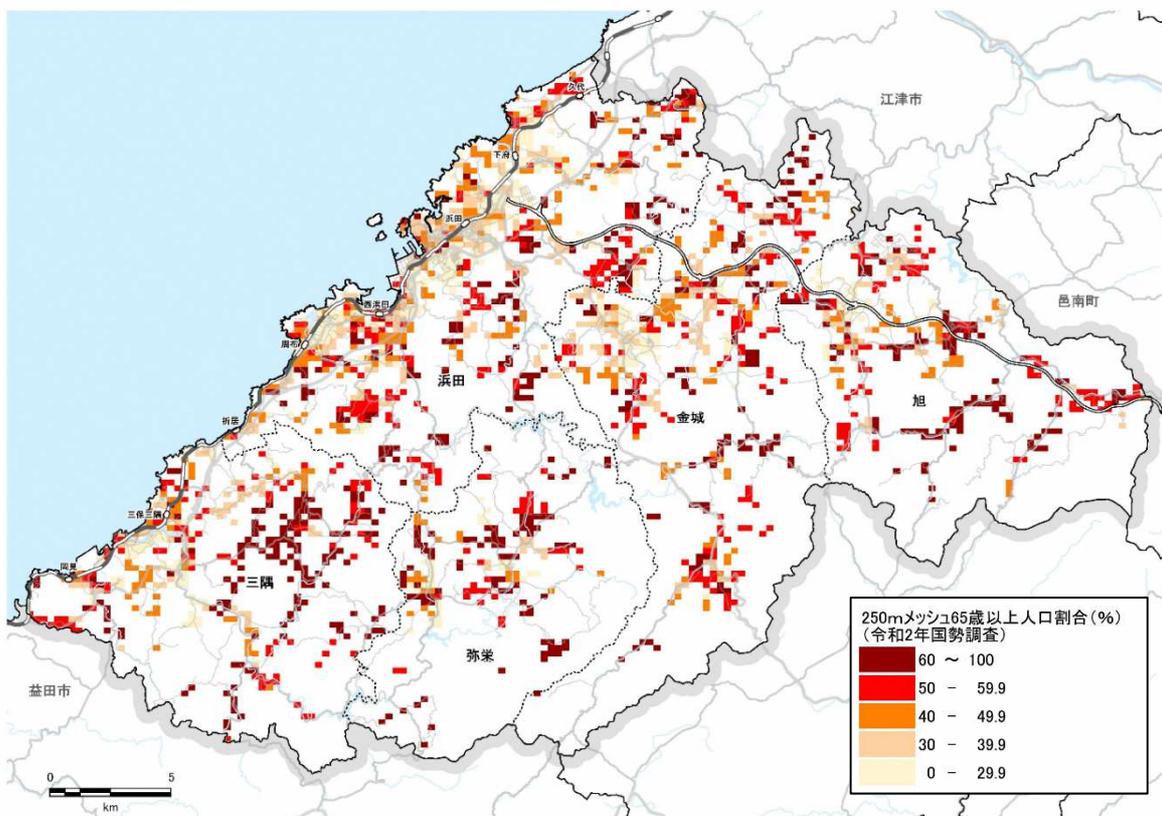


図 高齢者（65歳以上）人口分布

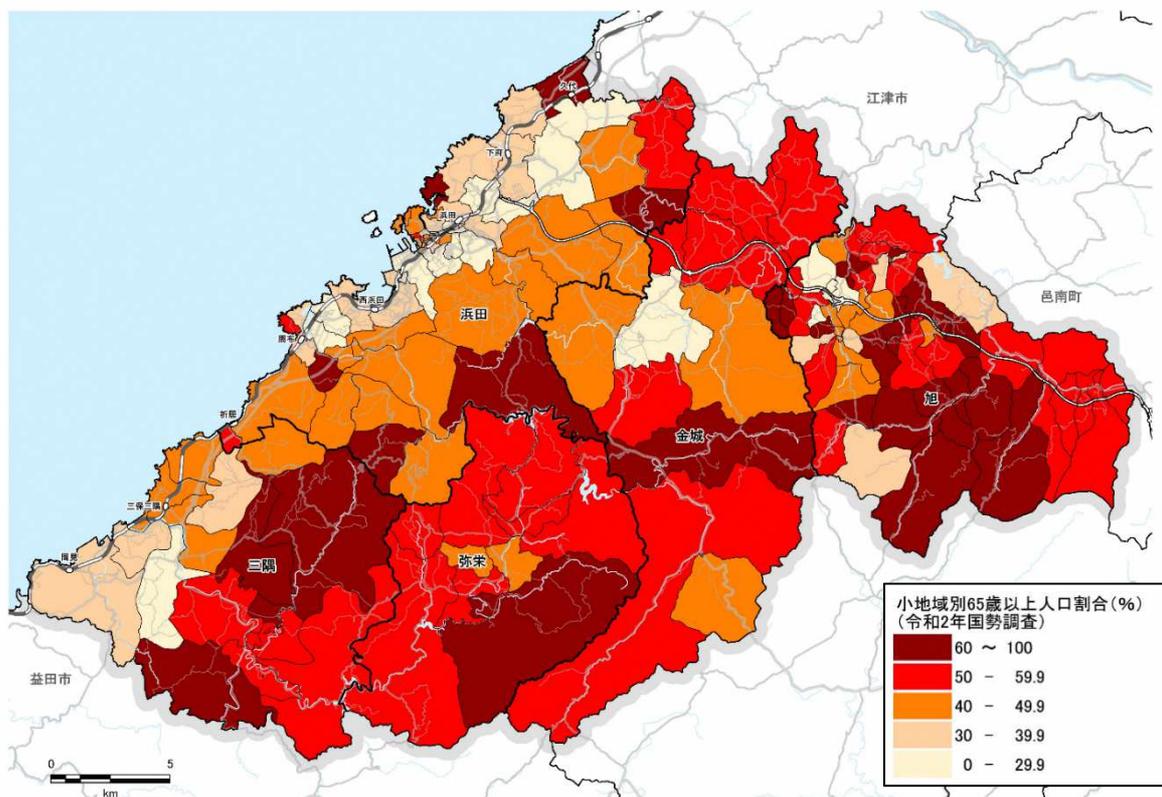


図 小地域別高齢者（65歳以上）人口分布

2. 移動の目的地となる立地状況

(1) 公共施設

- 浜田地域以外の地域の中心部で支所が設置されているほか、各地区でまちづくりセンターが設置されています。

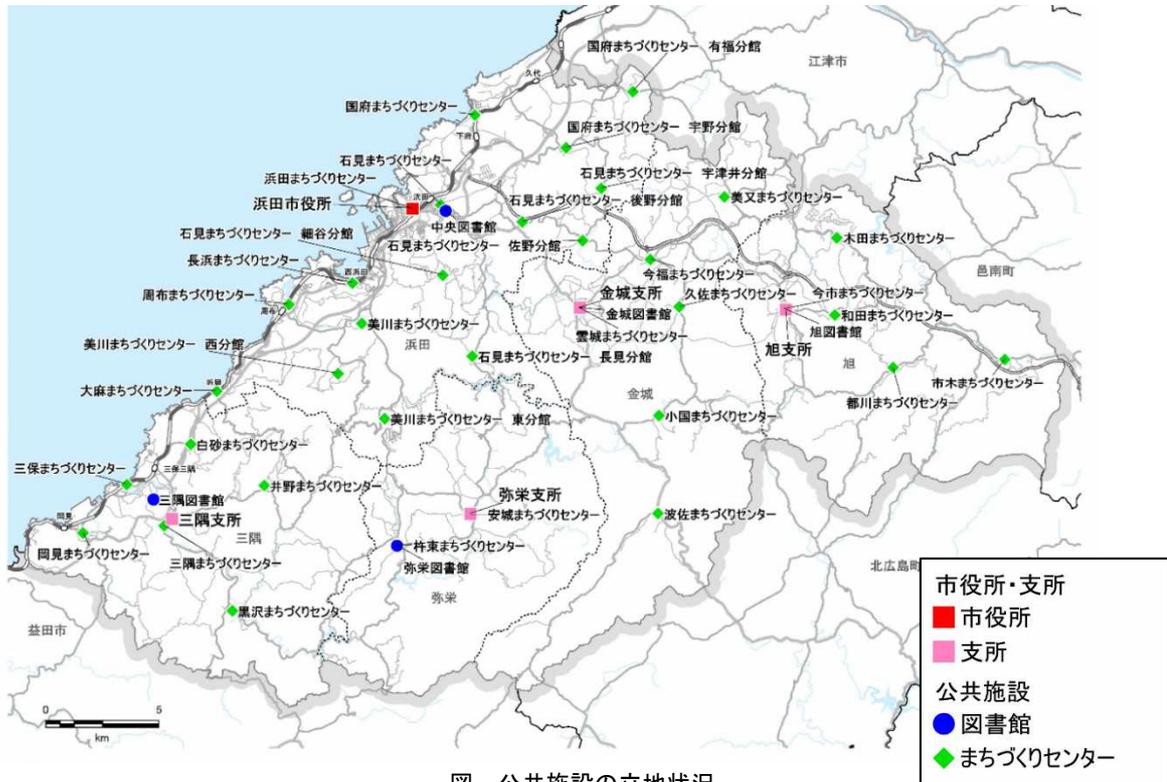


図 公共施設の立地状況

(2) 教育機関

- 各地域に小中学校が立地しています。
- 高等学校（3校）や大学・専門学校は浜田地域と三隅地域に立地しています。



図 教育機関（学校）の立地状況

(3) 医療機関

- 浜田地域と三隅地域は複数の病院や診療所（クリニック）が立地している一方、その他の地域は比較的に数が少なく、特に弥栄地域は1か所のみ立地しています。
- 浜田地域の中心部においては規模の大きい病院だけではなく、様々な病院や診療所（クリニック）、歯科診療所が集積しています。

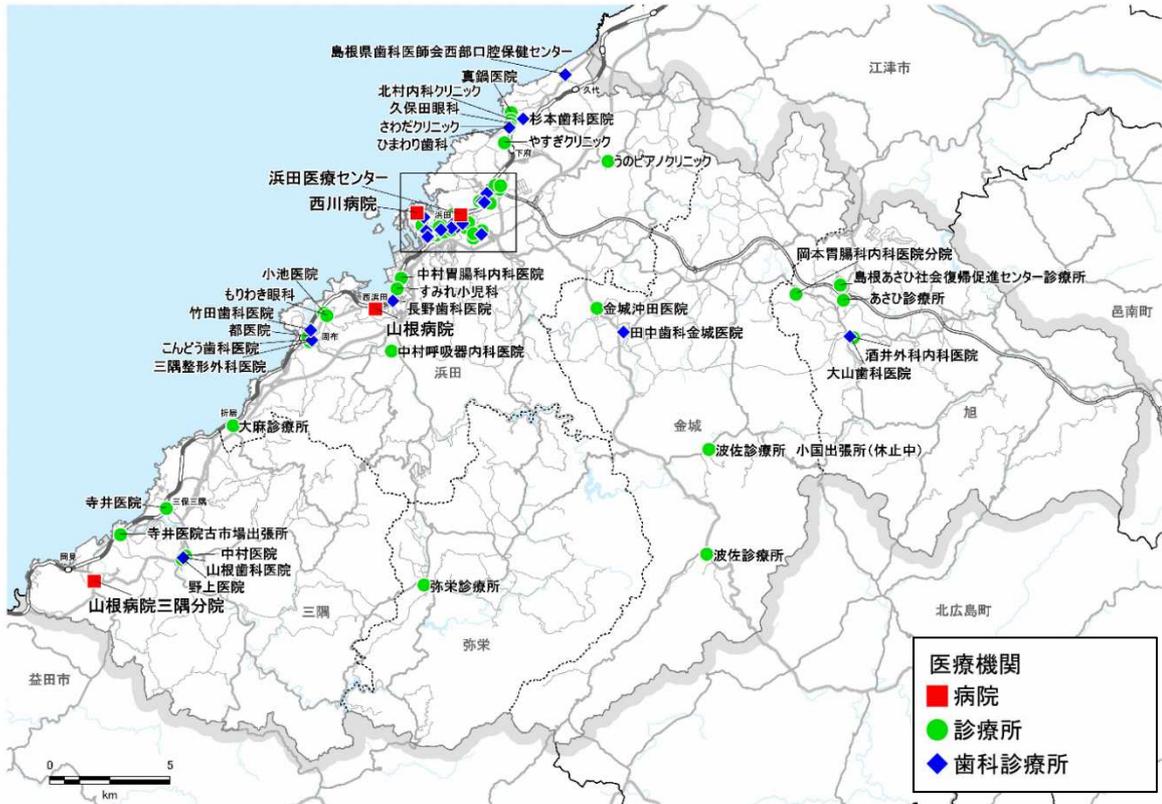


図 医療機関の立地状況



図 医療機関の立地状況（市中心部）

(4) 商業施設

- 商業施設の多くが浜田地域に集積しています。
- 金城地域、旭地域、弥栄地域、三隅地域では、スーパー（個人商店を除く。）は地域の中心部に、1～2店舗立地している状況です。

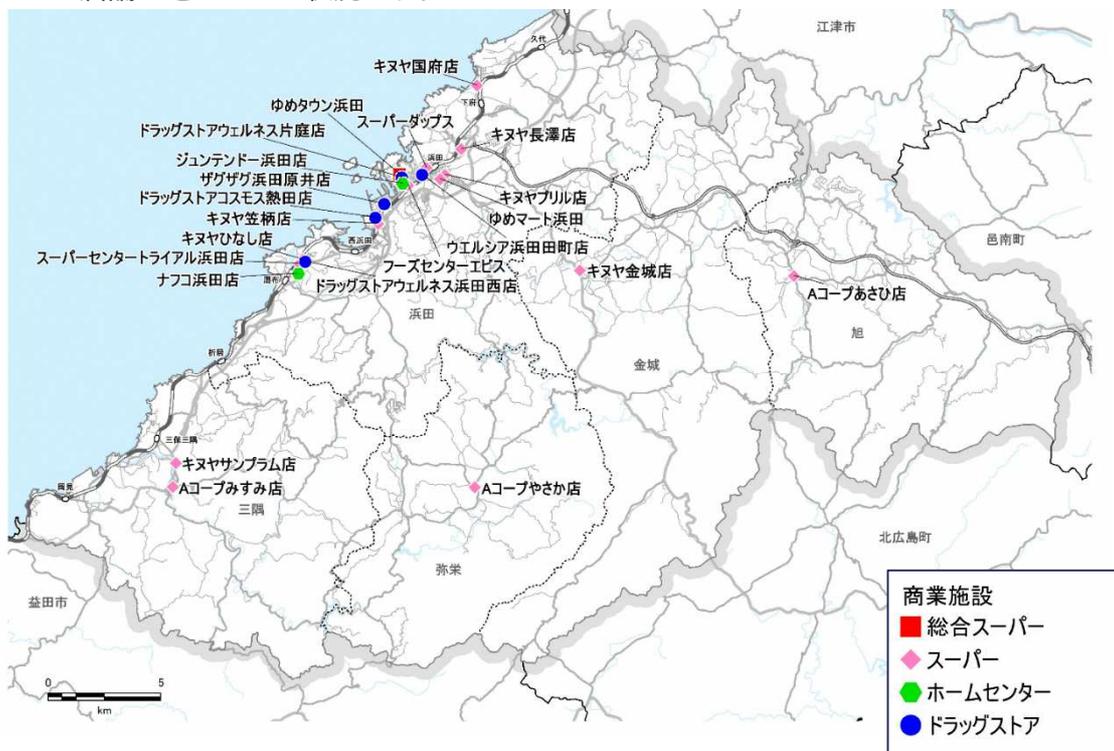


図 商業施設の立地状況（個人商店等は除く）

(5) 観光資源

- 多くの観光施設が国道9号沿線に立地しています。
- 旭地域や金城地域の観光施設においては、金城スマート IC（平成16年から開設）により浜田道からのアクセスがしやすくなりました。



図 観光資源の立地状況

(6) 各地域における機能集積状況

- 浜田地域の中心部や国道9号沿線において、比較的多くの機能集積があります。
- 金城地域、旭地域、弥栄地域、三隅地域においては、各施設が地域の中心部に集積しており、山間部の地区では集積数が少なくなっています。

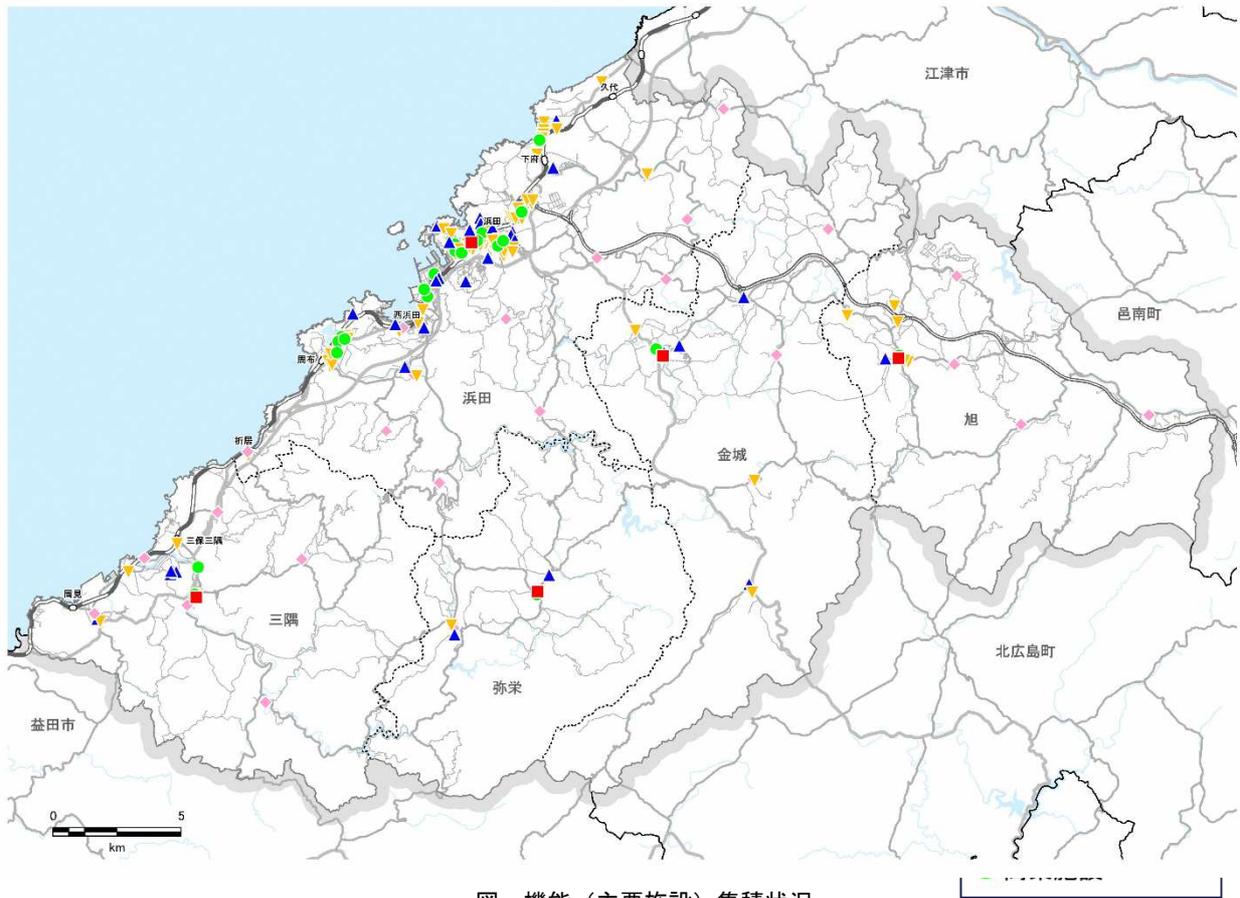


図 機能（主要施設）集積状況

3. 地域の道路網

- 国道 9 号が市の海岸部を東西に、国道 186 号が南北に走り、その他 9 つの主要地方道を中心に道路網が形成されています。
- また、国道 9 号と並行して山陰自動車道が走り、市の東部を南北に浜田自動車道が走っています。
- 計画的に道路整備が進められていますが、令和 2 年時点の浜田市の道路改良率（56.6%）は島根県平均（60.3%）をやや下回っています。

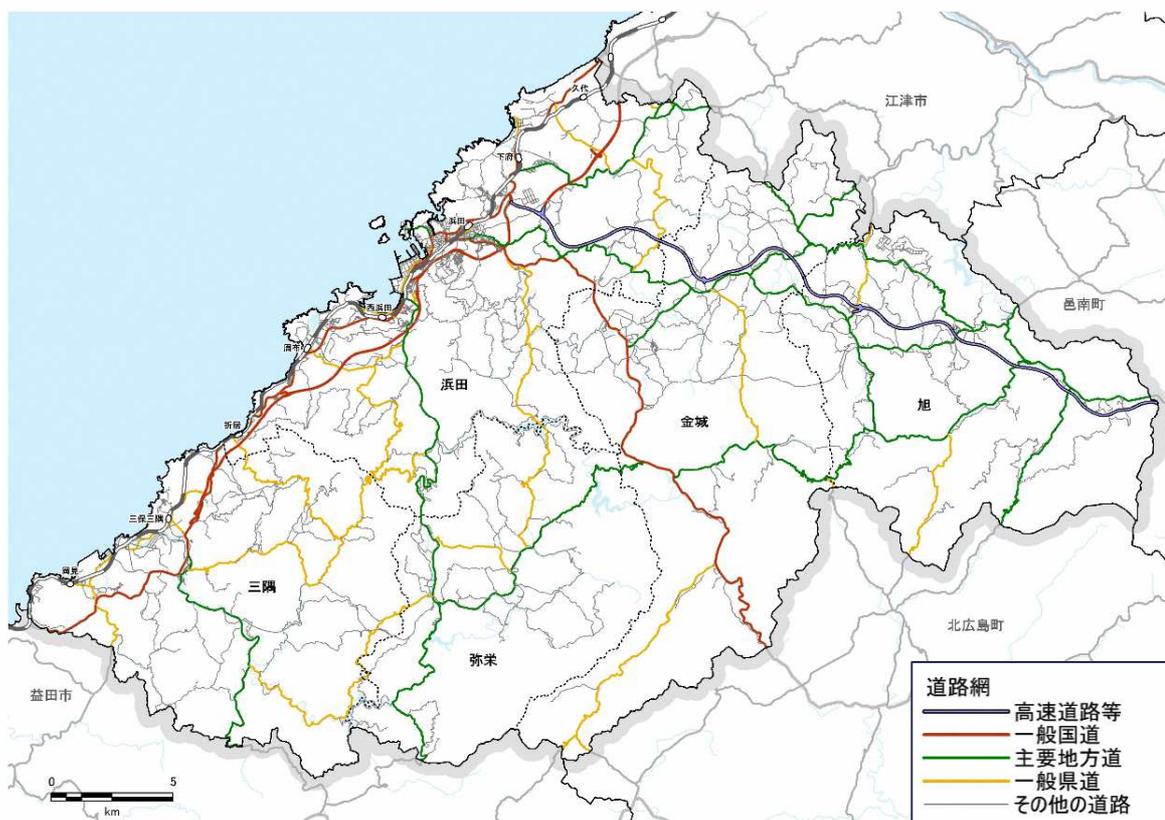


図 道路網

表 道路改良率・舗装率

	総数		国道		県道		市町村道	
	改良率	舗装率	改良率	舗装率	改良率	舗装率	改良率	舗装率
島根県	60.3%	83.2%	97.3%	100.0%	74.3%	98.8%	55.6%	79.5%
浜田市	56.6%	92.1%	100.0%	100.0%	75.0%	99.3%	50.3%	90.1%

資料: 令和2年島根県統計書

4. 上位・関連計画におけるまちづくりの方向性

(1) 第2次浜田市総合振興計画・後期基本計画(令和4年3月)

① まちづくりの基本方針と将来像

基本方針	浜田らしい魅力あるまちづくり 協働による持続可能なまちづくり 近隣自治体と連携し、県西部の発展をリードするまちづくり
将来像	住みたい 住んでよかった 魅力いっぱい 元気な浜田 ～ 豊かな自然、温かい人情、人の絆を大切にするまち ～
計画期間	基本構想:平成28(2016)年度～令和7(2025)年度《10年間》 後期基本計画:令和4(2022)年度～令和7(2025)年度《4年間》

② 公共交通に関する方針

後期基本計画のまちづくり大綱では、「生活基盤が整った快適に暮らせるまち【生活基盤部門】」内の施策大綱（総合戦略の基本方向）として「公共交通の充実」を掲げており、次の基本方針に基づいて主要施策を設定しています。

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特性に対応し、高齢者等の公共交通利用者のニーズに合った交通手段を確保します。 ● 需要に応じた効率的で持続可能な交通体系の構築を目指します。 ● 公共交通を利用しやすい環境づくりや利用促進に取り組みます。
------	---

③ 公共交通に関する施策の内容

施策名	施策の内容	主な事業・取組
高齢者等のニーズに応じた交通手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民や交通事業者と連携し、高齢者等に配慮した「ドア・トゥ・ドア型」の交通手段を確保する ● 敬老福祉乗車券交付事業を継続し、高齢者等の外出に係る経済的負担を軽減することで、外出意欲の増進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティワゴン運送支援事業 ● あいのりタクシー等運行支援事業 ● 敬老福祉乗車券交付事業
効率的で持続可能な交通体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤や通学等の市民生活に必要な公共交通を将来にわたって維持確保するため、需要に応じた効率的で持続可能な交通体系を構築する ● 生活路線バス及び予約型乗合タクシーについては、定期的に運行計画の見直しを行い、利用者のニーズへの対応と財政負担の軽減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 路線バス確保対策事業 ● 生活路線バス運行事業 ● 予約型乗合タクシー運行事業
利用しやすい交通環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● バス停の待合環境の改善や、高齢者等の利用に配慮した車両の導入等により公共交通利用者の利便性向上に取り組む ● 地域経済の活性化を意識した新たな利用促進の仕組みづくり等を推進し、公共交通利用者の減少を抑制する 	<ul style="list-style-type: none"> ● バス停整備事業 ● 生活路線バス車両整備事業 ● 地域公共交通活性化協議会事業

④ 公共交通に関する計画の数値指標

施策名	目標	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)	目標・指標の説明
1. 高齢者等のニーズに応じた交通手段の確保	交通手段の確保に取り組むまちづくり活動団体数の増加	3 団体	18 団体	コミュニティワゴン運送支援事業又はあいのりタクシー等運行支援事業を活用して交通手段の確保に取り組むまちづくり活動団体の数
	敬老福祉乗車券交付事業の申請者数の増加	3,176 人	16,000 人	敬老福祉乗車券交付事業の申請者数の令和4～7年度の累計
2. 効率的で持続可能な交通体系の構築	生活路線バスの利用者数の維持	22,760 人	22,760 人以上	生活路線バスの年間利用者数
	予約型乗合タクシーの利用者数の維持	3,816 人	3,816 人以上	予約型乗合タクシーの年間利用者数
3. 利用しやすい交通環境の整備	環境整備を実施したバス停数の増加	6 か所	9 か所	市がベンチや上屋の設置等、環境整備に取り組んだバス停数の平成28年度以降の累計
	公共交通利用促進策の増加年間	1 事業	14 事業	公共交通の利用促進を図るために取り組む事業数の令和4～7年度の累計

(2) 浜田市都市計画マスタープラン(令和4年3月)

① 将来都市像と都市づくりの基本理念

将来像	自然・歴史・文化と調和した快適な都市空間と賑わいのあるまち・浜田
基本理念	<ol style="list-style-type: none"> 1. 島根県西部の発展に貢献する都市づくり 2. 機能の集約・連携による持続可能な都市づくり 3. 誰もが安全・安心に暮らせる都市づくり 4. 多様な地域の個性を生かした都市づくり 5. 自然環境と町並みが共生する都市づくり 6. 市民等との協働による都市づくりする都市づくり
計画期間	令和4(2022)年度～令和14(2032)年度《10年間》

② 公共交通に関する施策の内容

施策名	施策の内容
交通結節点の機能強化と利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通結節点である JR 浜田駅は、機能強化やバリアフリー・ユニバーサルデザインを進める ● 分かりやすい公共交通情報の提供やバス停の待合環境の改善、高齢者等の利用に配慮した車両の導入等、公共交通利用者の利便性向上に取り組む
効率的で持続可能な公共交通体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 通勤や通学等の市民生活に必要な公共交通を将来にわたって維持確保するため、需要に応じた交通手段を選択し、効率的で持続可能な交通体系の構築に努める ● 市が主管する公共交通（生活路線バス及び予約型乗合タクシー）については、定期的に運行計画の見直しを行い、利用者のニーズへの対応と財政負担の軽減を図る

■将来都市構造図

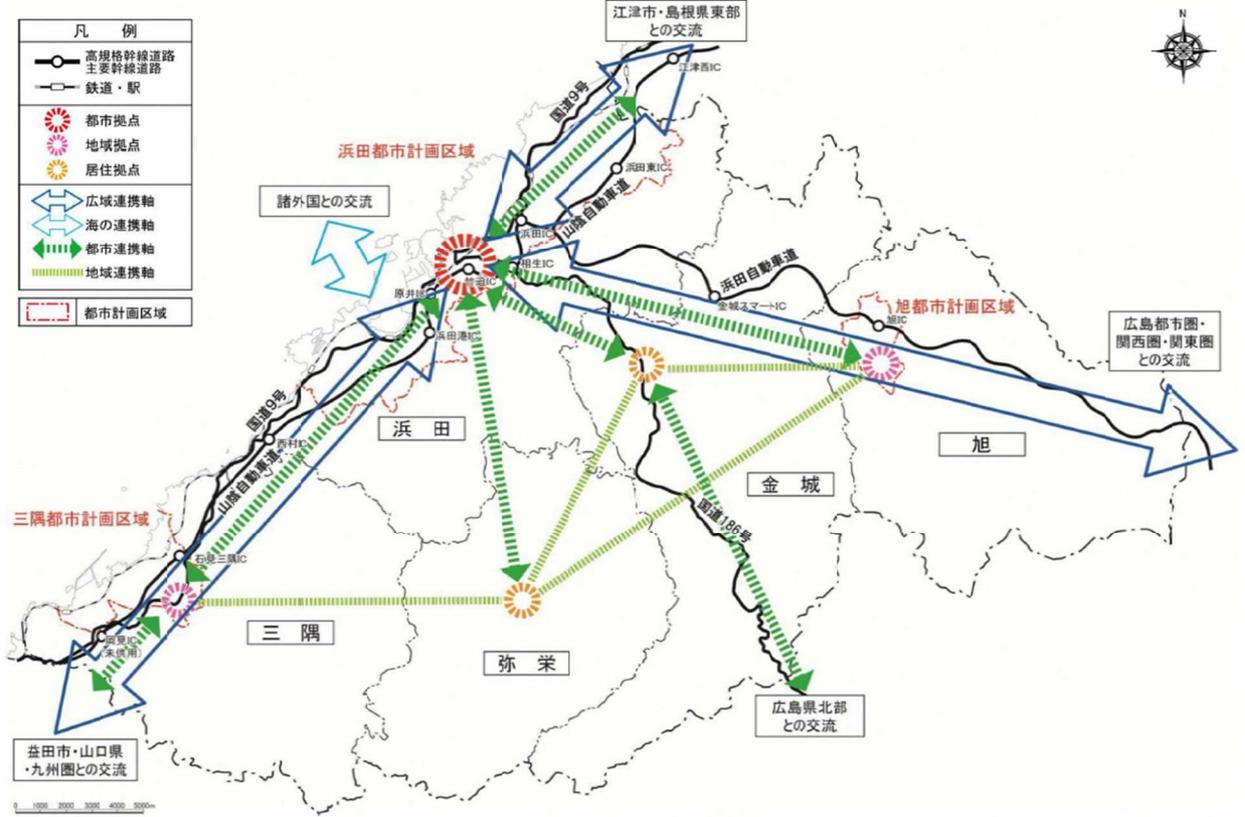


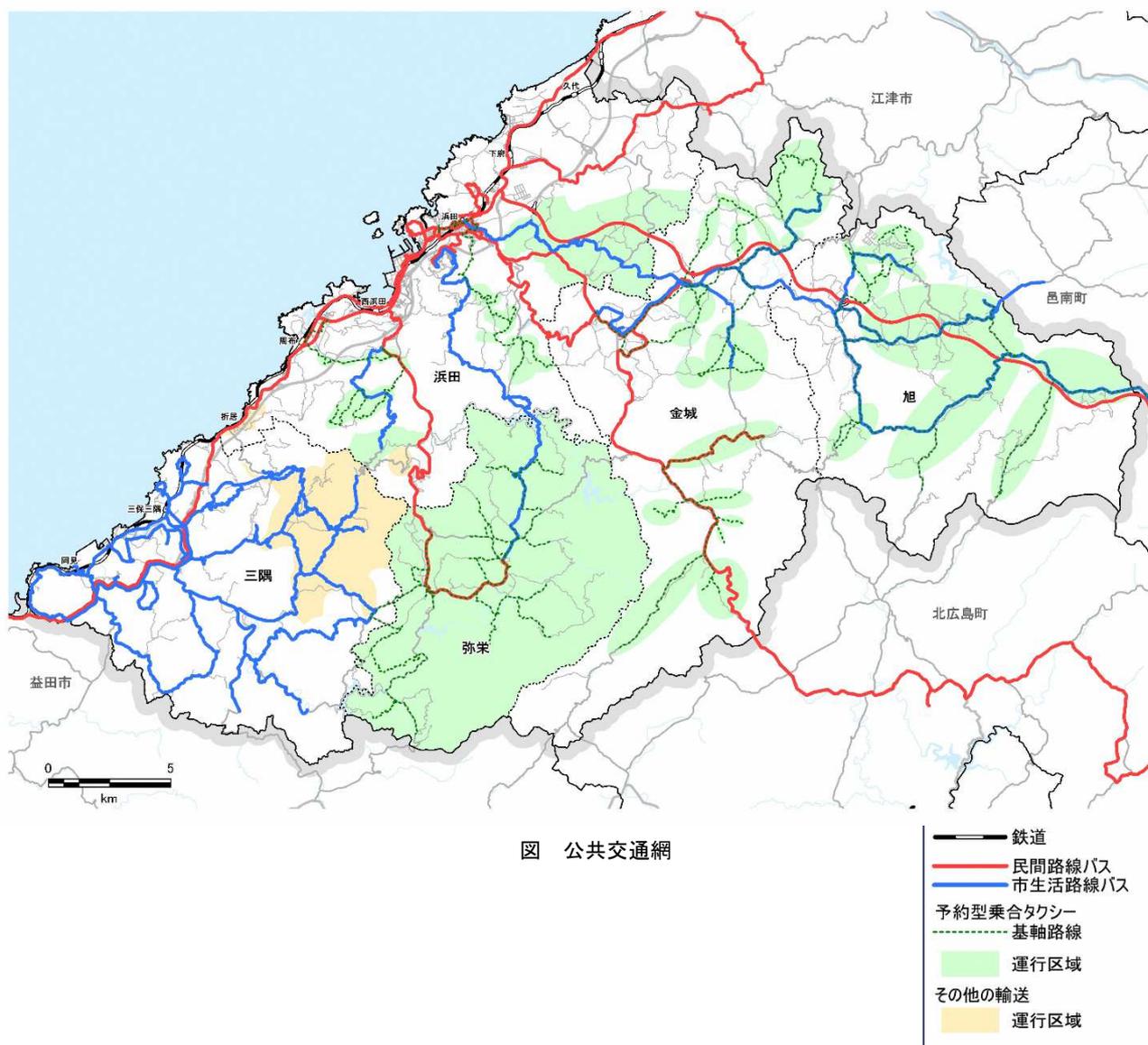
図 将来都市構想図

第2章 公共交通の現状整理

1. 公共交通の整備状況

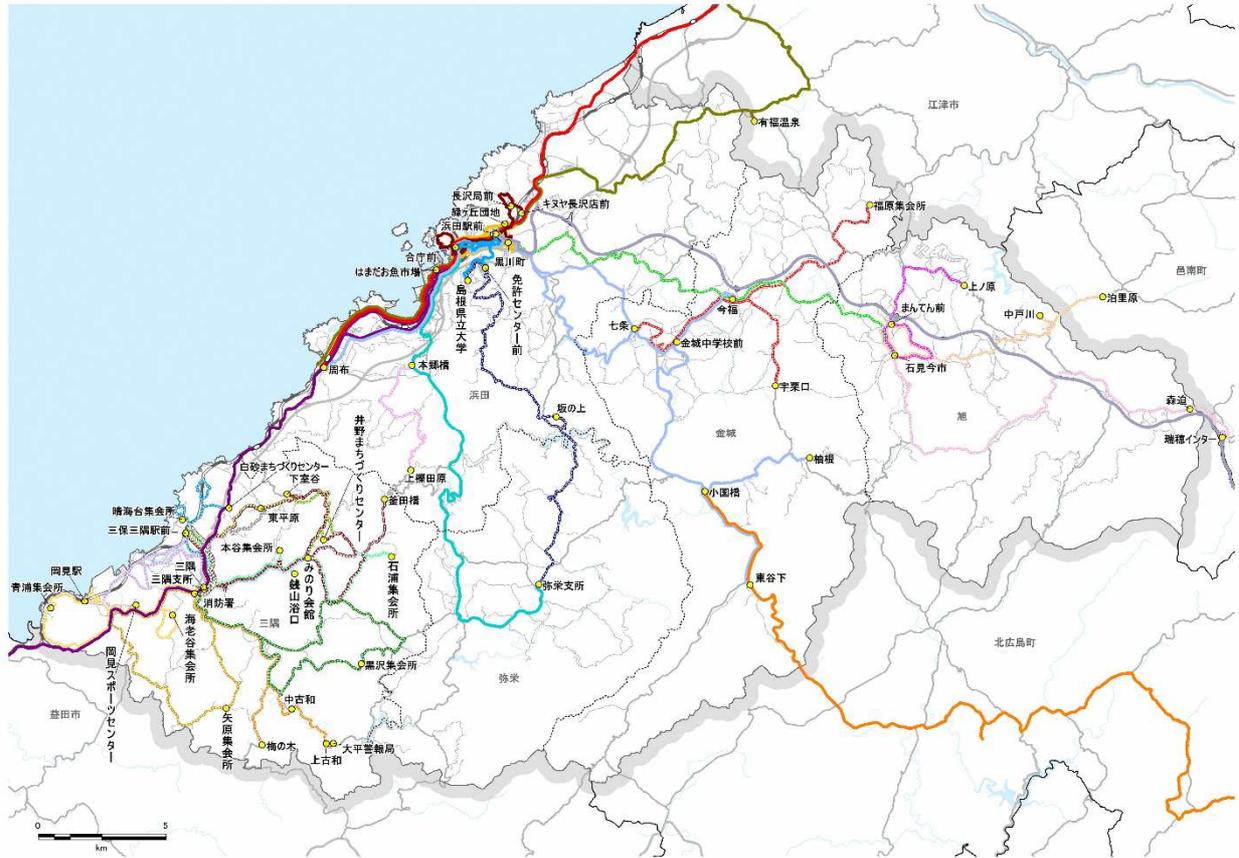
(1) 公共交通網

- 本市の公共交通は、JR山陰本線、民間路線バス、民間タクシー、市生活路線バス、市予約型乗合タクシー（以下「市乗合タクシー」という。）で構成されています。
- その他の輸送は地域住民が主体となって運行しているもの（コミュニティワゴン輸送）を指しており、三隅地域の井野地区（井野っ地号）、浜田地域の羽原地区・大麻地区（自治会輸送活動）で運行しています。
- 公共交通の利用促進の一環として、平成28年度から70歳以上の高齢及び障がい者を対象に敬老福祉乗車券制度を開始しており、タクシーを含めた公共交通を実質半額で利用できます。



(2) バス路線の運行状況

- 民間路線バスは、浜田駅を中心に市内の各地域を結ぶとともに、隣接する益田市、江津市、広島県北広島町とを結び、令和5年時点では路線バスが9路線、高速バスが1路線運行しています。
- 市生活路線バスは、主に民間路線バスでの運行が困難となった地域への代替交通として平成3年から導入し、令和5年時点で19路線が運行しています。

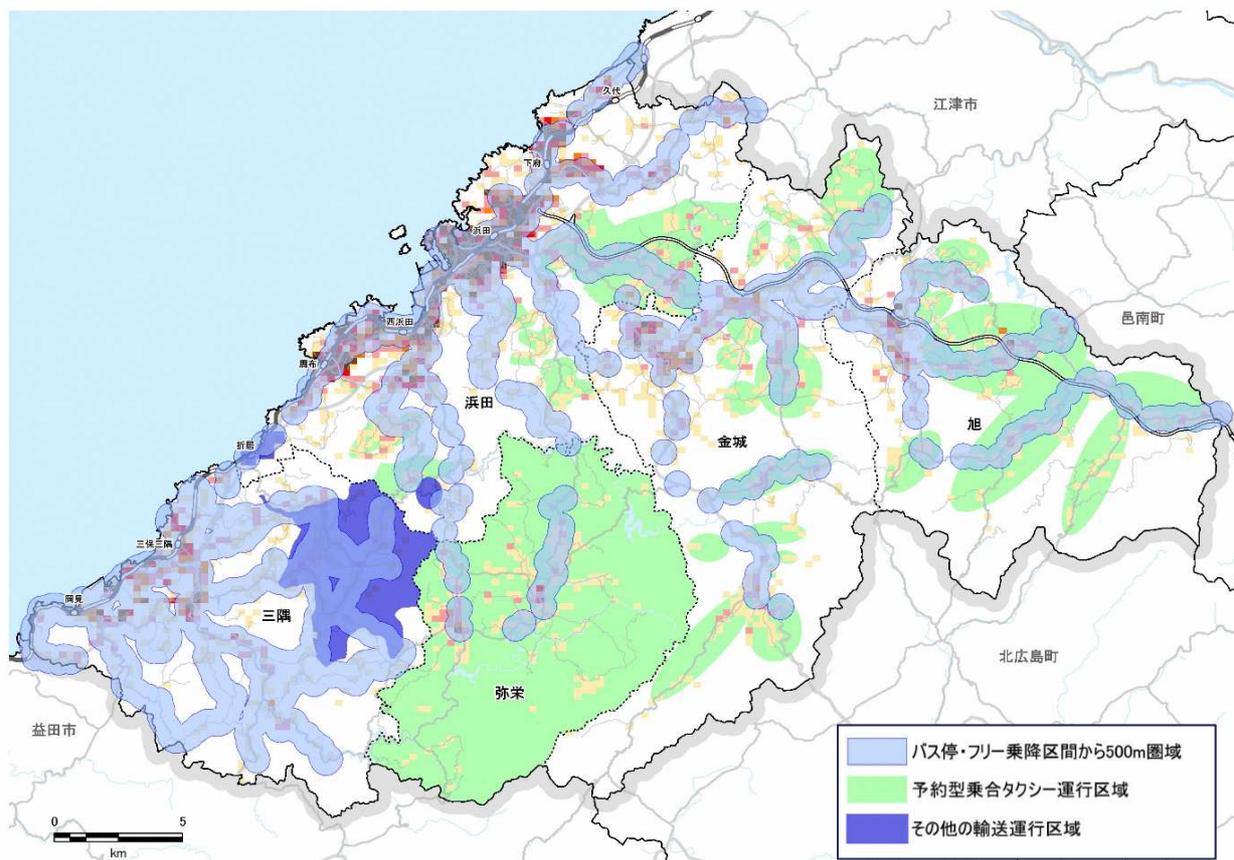


民間路線バス	
—	周布・江津線(周布線の一部含む)
—	有福線(周布線の一部含む)
—	浜田・益田線
—	弥栄線
—	波佐線(周布線の一部含む)
—	市内循環線
—	長沢・瀬戸ヶ島線
—	大学線
—	千代田芸北・金城線(予約型)
—	高速広浜線【いさりび号】
市生活路線バス	
—	浜田路線(樺田原線)
—	旭浜田路線(今市浜田線)
—	金城路線
—	旭路線(木田線)
—	旭路線(戸川線)
—	旭路線(瑞穂線)
—	弥栄野原路線
—	三隅路線(循環線)
—	三隅路線(井野室谷線)
—	三隅路線(諸谷平原線)
—	三隅路線(平原森溝線)
—	三隅路線(白砂西河内線)
—	三隅路線(井野三隅線)
—	三隅路線(周布地今明線)
—	三隅路線(石浦小原線)
—	三隅路線(黒沢矢原線)
—	三隅路線(黒沢小原線)
—	三隅路線(矢原岡見線)
—	三隅路線(岡見海老谷線)

図 路線バスの運行状況・路線図

(3) 公共交通によるカバー状況

- 本市が位置付ける交通空白地域とは、バス路線の停留所等から概ね 500メートル以上離れた集落を指しています。
- 市乗合タクシーの運行や地域主体の輸送手段（コミュニティワゴン輸送）により空白地域は縮小しており、市全体のカバー率は平成 23 年の 91%から 93.6%まで上昇しています。
- 地域別に見ると、金城地域や旭地域のカバー率が他地域より低く、カバーができていない山間部集落が見られます。また、浜田地域においても幹線道路沿線から離れたところで公共交通の空白地域が存在します。



※バス停・フリー乗降区間から 500m圏域、乗合タクシー運行区域、その他の輸送運行区域を含めて算出

図 公共交通空白地域の状況

表 地域別の公共交通によるカバー状況

地域	令和 2 年国勢調査 人口 (人)	圏域内 人口(人)	圏域外 人口(人)	公共交通による カバー率
浜田	39,370	36,666	2,704	93.1%
金城	4,088	3,729	359	91.2%
旭	3,510	3,188	322	90.8%
弥栄	1,168	1,168	-	100.0%
三隅	6,456	6,321	135	97.9%
計	54,592	51,072	3,520	93.6%

(4) バス路線の運行便数

- 市中心部の運行便数が比較的多く、周布までの国道9号の区間や浜田駅周辺の区間においては、1日50便以上の便数が確保されています。
- 金城地域、旭地域、弥栄地域、三隅地域の国道を除く区間を運行する路線バスの便数はいずれも20便以下です。また、バスでの運行が適さない地域は市乗合タクシーによりカバーしています。

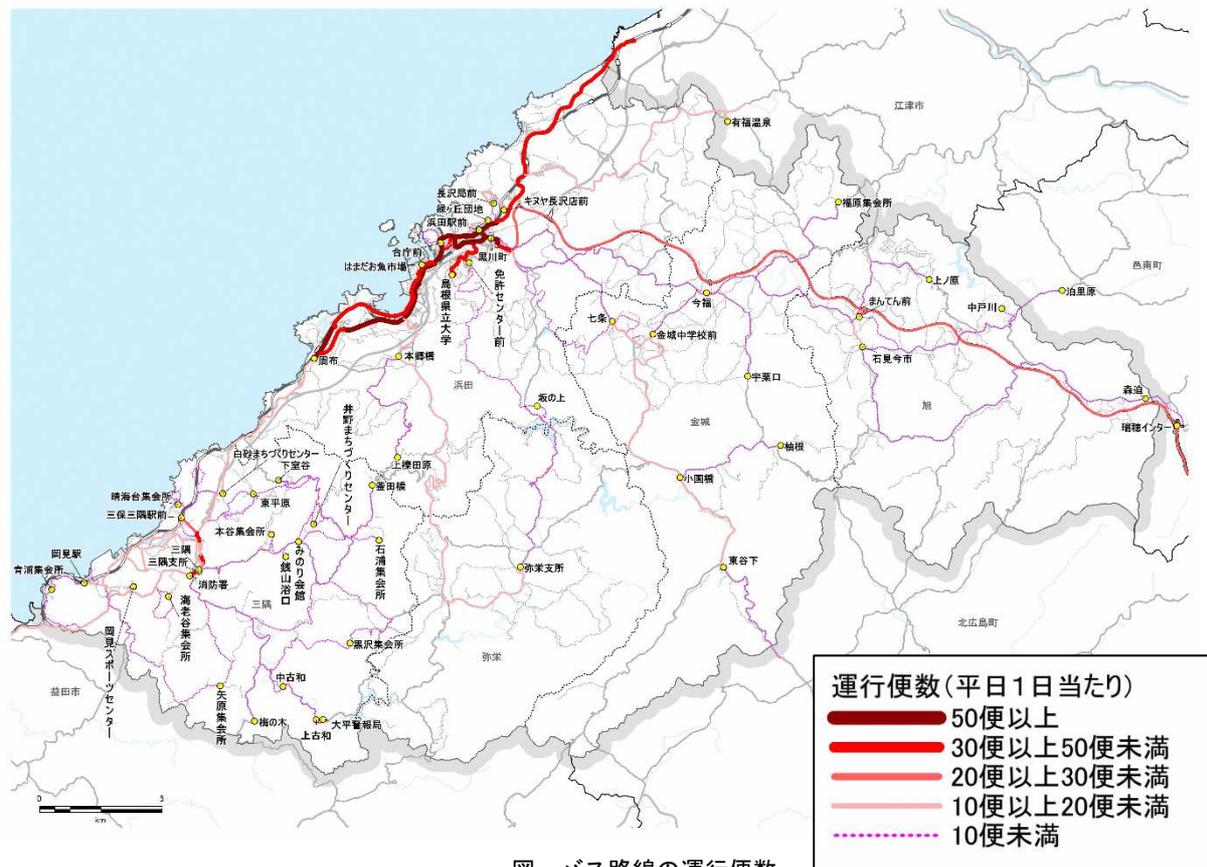


図 バス路線の運行便数

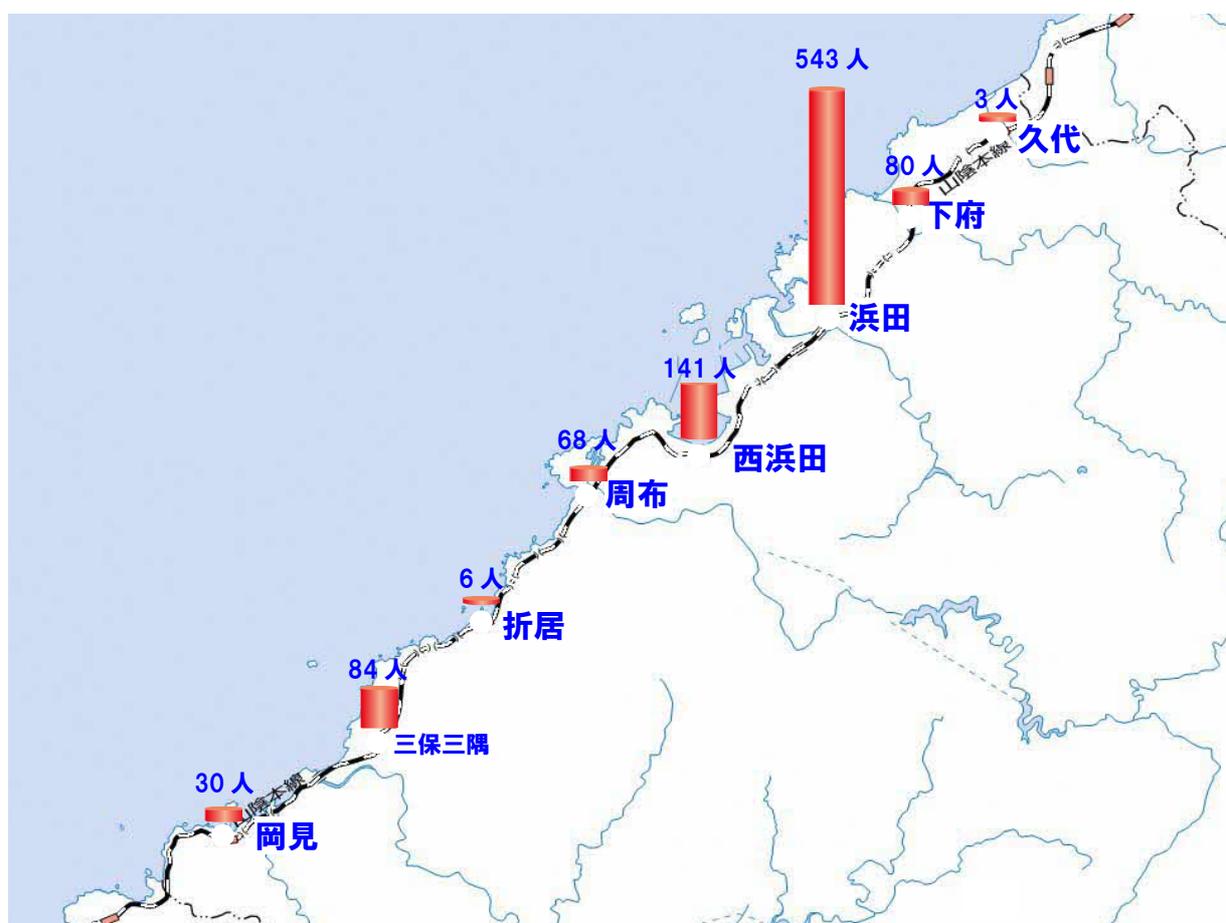
2. 公共交通の利用状況

(1) 鉄道

- 都市間を結ぶ広域交通の主軸を担うJR山陰本線は、令和5年10月時点で浜田駅を起点に江津方面へ19本、益田方面へ18本が運行しています。
- 本数は新型コロナウイルス感染症の影響等もありコロナ禍前から減少したほか、山陰本線米子～益田間を運行していた快速（アクアライナー）も普通列車への変更等によって、令和4年3月に全廃しました。
- コロナ禍の影響により乗車員数も減少傾向にあり、令和2年時点では浜田市内の駅の日平均乗車人員は1,000人/日を下回っています。

表 江津方面と益田方面の運行本数

方面（行先）	浜田駅から見た運行本数	
	平成30年10月	令和5年10月
江津・大田市方面行き	26本(内特急7本)	19本(内特急7本)
益田・東萩・新山口方面行き	21本(内特急7本)	18本(内特急7本)



出典：島根県統計書

図 日平均乗車人員（令和2年度）

(2) 民間路線バス

① 利用者数の推移

- 石見交通が運行する民間路線バスの年間利用者数は、コロナ禍前の令和元年度までは年間70万人台で推移していたが、コロナ禍の影響から令和2年以降は年間60万人台で推移しており、令和4年度も減少傾向が続いています。
- 最も利用者数が多い路線は「周布・江津線」で全体のおよそ4割を占めています。
- 平成30年と令和4年の利用者数を比較すると、一部の路線は路線再編等によって利用の増加が見られるものの、多くの路線が減少傾向にあります。特に、市内循環線、波佐線、有福線の減少幅が大きく、波佐線は平成30年度の半数程度まで利用者数が減少しています。

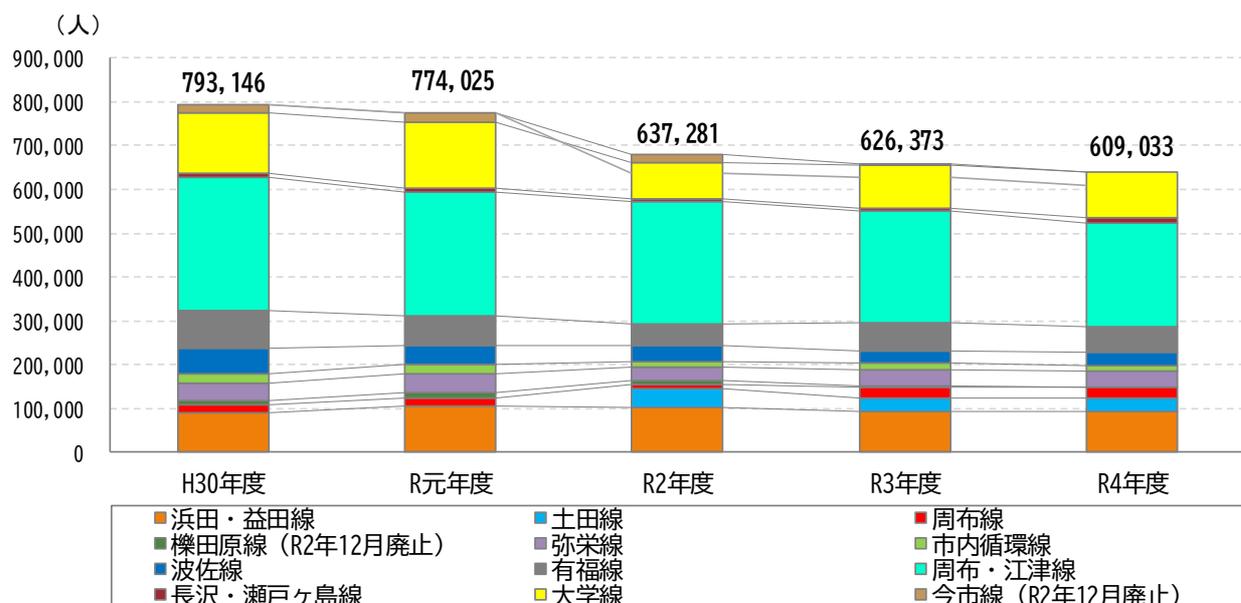


図 民間路線バスの年間利用者数推移 (石見交通提供)

表 平成30年度と令和4年度の民間路線バス年間利用者数比較 (石見交通提供)

路線名	年間利用者数		H30年からの増減幅
	H30年度	R4年度	
浜田・益田線	88,890人	94,352人	5.8%
土田線	-	30,777人	-
周布線	19,991人	22,237人	10.1%
櫛田原線 (R2年12月廃止)	9,097人	-	-
弥栄線	40,443人	37,331人	-8.3%
市内循環線	19,931人	13,883人	-43.6%
波佐線	60,437人	28,970人	-108.6%
有福線	83,539人	59,546人	-40.3%
周布・江津線	306,097人	235,987人	-29.7%
長沢・瀬戸ヶ島線	7,690人	12,112人	36.5%
大学線	138,574人	104,615人	-32.5%
今市線 (R2年12月廃止)	18,457人	-	-
計	793,146人	609,033人	-30.2%

② 乗降調査結果から見た利用状況

※令和5月～7月にかけて石見交通が実施した乗降調査（平日1日間）を集計

- 1便当たりの平均利用者数は、周布・江津線が最も多く、通勤定期券利用者の割合が24%と実数では最も多く、割合も有福線に次いで大きくなっています。
- 通学定期券の割合は、浜田・益田線が最も多く、1便当たり13.4人が利用しています。
- 現金・バスカードの割合が大きい路線は、周布線、市内循環線、長沢・瀬戸ヶ島線、大学線でいずれも比較的運行距離が短い路線になります。うち大学線は、回数券の利用が最も多く、1便当たりの利用者数も15.4人と上位に位置しています。
- 乗降バス停はいずれも浜田駅が上位に入っており、周布・江津線が浜田駅での乗降者数が最も多い路線となっています。また、大学線は県立大学での乗降に集中しています。

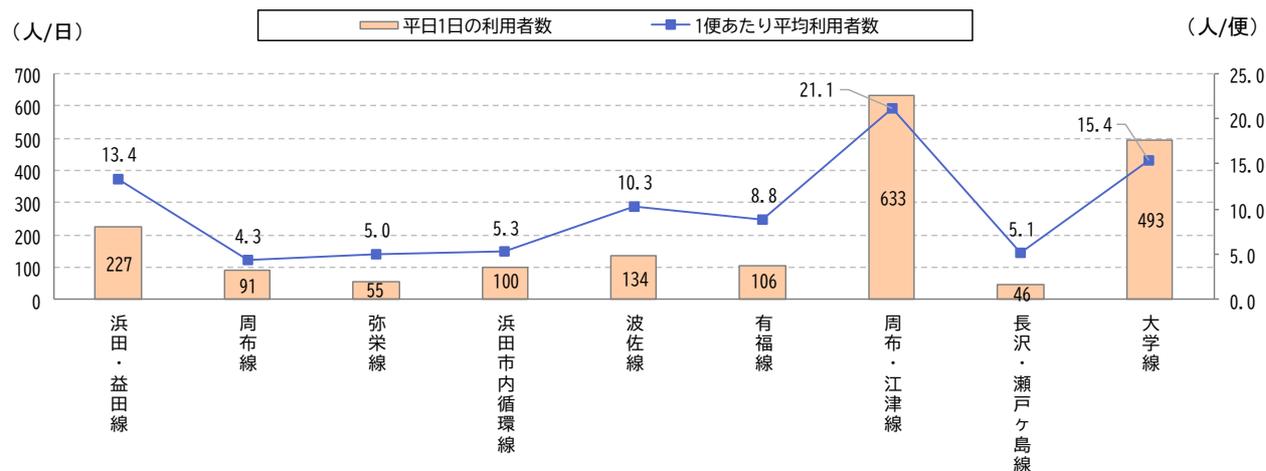


図 路線別利用者数（平日1日）（石見交通提供）

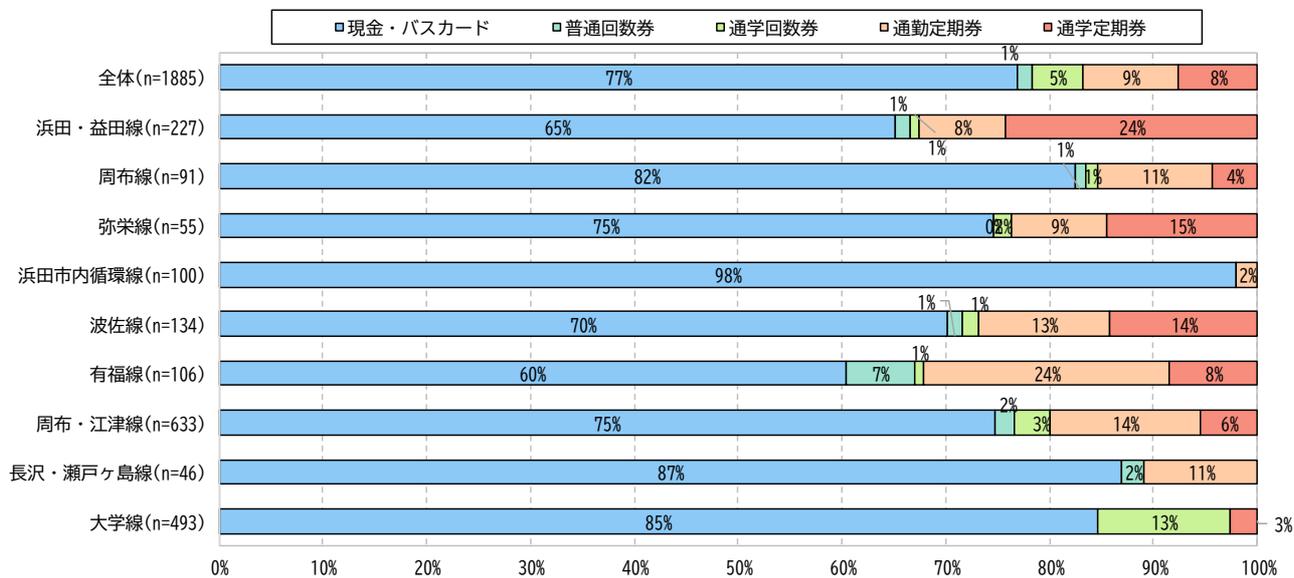


図 各路線の券種別利用状況（平日1日）

表 各路線における乗降数の多いバス停（上位5件を抽出）

浜田・益田線		周布線		弥栄線		市内循環線		波佐線	
東津田	41	合同庁舎前	31	浜田駅前	20	合同庁舎前	36	浜田駅前	41
合同庁舎前	26	浜田駅前	30	商業高校前	10	上朝日町	31	合同庁舎前	26
イオン前	23	笠柄団地前	15	本郷橋	8	浜田駅前	26	金城中学校前	23
益田駅	22	国道福井	12	殿町	7	緑ヶ丘団地	19	国道熱田	21
浜田駅前	21	国道熱田	10	弥栄支所	7	医療センター	18	金城支所前	13
		殿町(国道186)	10						

有福線		周布江津線		長沢・瀬戸ヶ島線		大学線	
浜田駅前	31	浜田駅前	186	浜田駅前	16	県立大学	385
大水道	11	谷田	79	合同庁舎前	10	浜田駅前	249
殿町	9	合同庁舎前	76	新中芝橋	8	上朝日町	108
有福温泉	9	江津市役所前	74	団地中	6	竹迫町	87
上日脚	8	畳ヶ浦口	42	殿町	5	いわみーる	46
上府	8						

(3) 市生活路線バス

① 年間利用者数の推移(全体)

- 市生活路線バスの年間利用者数は、コロナ禍の影響から令和2年度に前年から3,000人程度の落ち込みが見られます。
- 令和2年12月から廃止となった民間路線バス（櫛田原線、今市線）の代替として旭浜田路線と浜田路線が運行したことにより、市生活路線バス全体の利用者数は令和3年度以降増加傾向にあります。一方で、既存路線の利用者数はいずれも減少傾向にあります。
- 令和4年度と平成30年度の利用者数を比較すると、金城路線が微増しているものの、旭路線と弥栄野原路線は年間1,000人以上の大きな減少が見られます。

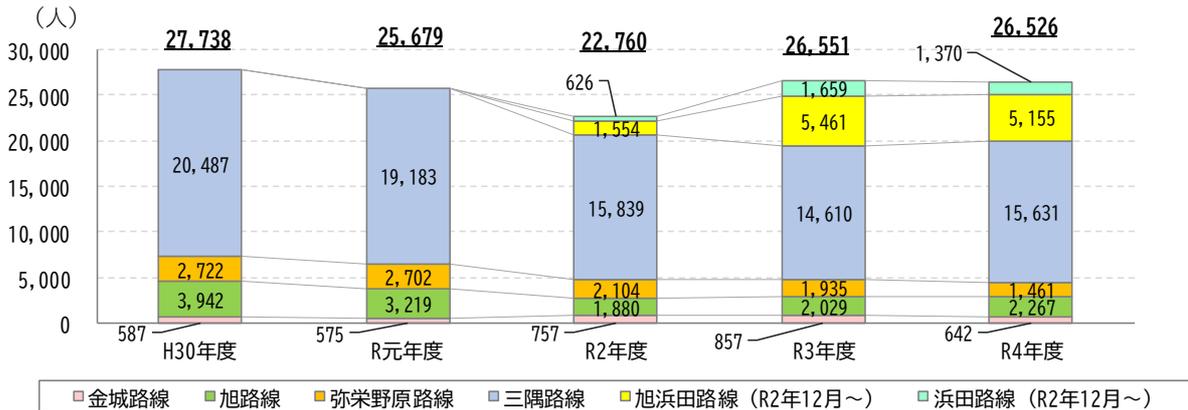


図 市生活路線バスの年間利用者数推移

表 平成30年度と令和4年度の市生活路線バス年間利用者数比較

路線	年間利用者数		H30年からの増減幅
	H30年度	R4年度	
金城路線	587人	642人	9%
旭路線	3,942人	2,267人	-74%
弥栄野原路線	2,722人	1,461人	-86%
三隅路線	20,487人	15,631人	-31%
旭浜田路線(R2年12月~)	-	5,155人	-
浜田路線(R2年12月~)	-	1,370人	-
合計	27,738人	26,526人	-5%

② 各路線の詳細

- 金城路線については、雲城美又線と雲城久佐美又線の利用者数が増加している一方、雲城久佐線の利用者数が大きく減少しています。
- 旭路線については、いずれの路線も利用者数が減少傾向にあり、特に瑞穂線の利用者数が平成30年度の3分の1まで減少しています。
- 三隅路線について、利用者の多い循環線は令和2年度にコロナ禍の影響で利用者数に落ち込みが見られたもの、令和4年度はコロナ禍前（令和元年度）の水準を維持しています。
- 一方で、循環線以外の三隅路線はいずれも減少傾向にあり、井野室谷線、諸谷平原線、白浜西河内線、井野三隅線、石浦小原線、矢原岡見線の年間利用者数は平成30年度の半数より少なくなっています。

表 市生活路線バス・金城路線の年間利用者数（詳細）

路線名	年間利用者数(人)					H30年からの増減幅
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
雲城美又線	45	57	51	50	67	33%
雲城久佐線	122	117	312	382	55	-122%
雲城久佐美又線	394	390	381	425	520	24%

表 市生活路線バス・旭路線の年間利用者数（詳細）

路線名	年間利用者数(人)					H30年からの増減幅
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
木田線	375	179	93	67	170	-121%
戸川線	2,573	2,128	1,172	1,582	1,713	-50%
瑞穂線	994	912	615	380	384	-159%

表 市生活路線バス・三隅路線の年間利用者数（詳細）

路線名	年間利用者数(人)					H30年からの増減幅
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
循環線	8,340	8,565	7,312	7,054	8,527	2%
井野室谷線	562	350	316	300	236	-138%
諸谷平原線	680	470	375	311	256	-166%
平原森溝線	182	166	157	108	124	-47%
白砂西河内線	694	591	445	393	327	-112%
井野三隅線	1,431	1,353	1,011	697	689	-108%
周布地今明線	1,518	1,314	1,189	1,039	986	-54%
石浦小原線	820	642	411	402	284	-189%
黒沢矢原線	3,218	3,073	2,662	2,491	2,437	-32%
黒沢小原線	2,265	2,034	1,506	1,431	1,335	-70%
矢原岡見線	436	314	158	117	193	-126%
岡見海老谷線	341	311	297	267	237	-44%

(4) 市乗合タクシー

① 年間利用者数の推移(全体)

- 市乗合タクシーの年間利用者数は、毎年度減少傾向が続いており、令和2年度以降は年間3,000人台で推移しています。
- 金城地域、旭地域、弥栄地域の路線は年度によって多少の変化はあるものの大きな増減は見られず、浜田地域の路線は平成30年度から700人以上の減少が見られます。

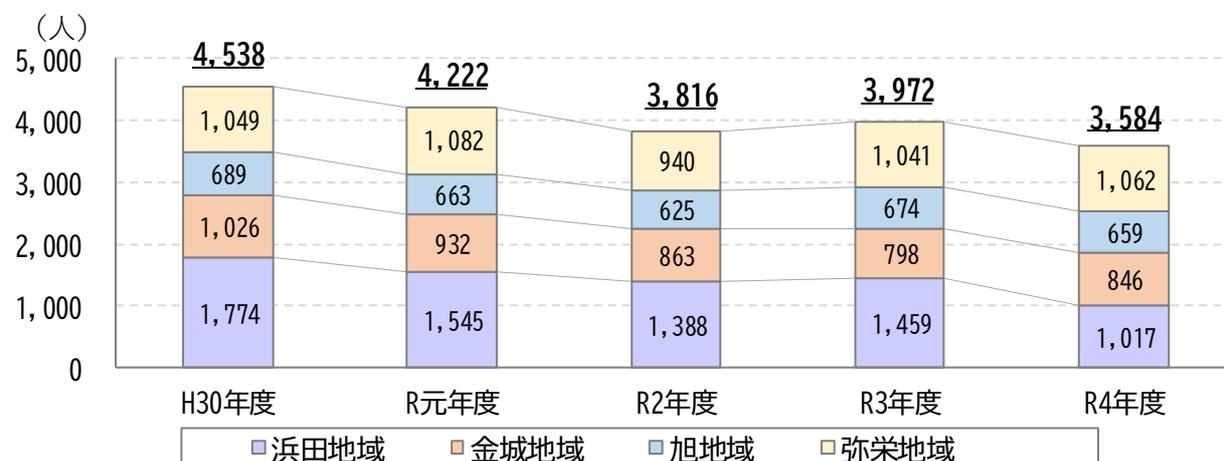


図 市乗合タクシーの年間利用者数推移

② 各地域の詳細

- 浜田地域の路線は石見東線が運行開始以降、路線バスの代替ということもあり一定の利用が見られますが、三階長見線と美川線は減少傾向にあり、特に三階長見線の年間利用者数は令和4年度時点で100人を下回っています。
- 金城地域、旭地域、弥栄地域の路線については、一部の路線は減少が見られる路線もある一方、利用者数が増加している路線もあることから、年間利用者数を各地区全体で見ると令和元年度以降は同水準で推移しています。

表 市乗合タクシー・浜田路線の年間利用者数(詳細)

路線名	年間利用者数(人)					H30年からの増減幅
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
三階長見線	640	419	157	100	57	-1023%
美川線	1,134	1,126	1,022	622	298	-281%
石見東線	-	-	201	709	645	-
櫛田原線	-	-	8	28	17	-

表 市乗合タクシー・金城路線の年間利用者数（詳細）

路線名	年間利用者数(人)					H30年からの 増減幅
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
小国・波佐線	789	640	493	393	330	-139%
美又線	53	137	155	180	281	81%
久佐線	184	155	215	225	235	22%

表 市乗合タクシー・旭路線の年間利用者数（詳細）

路線名	年間利用者数(人)					H30年からの 増減幅
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
木田・山ノ内線	182	186	206	226	196	7%
和田線	98	92	98	92	81	-21%
坂本・都川線	166	199	192	242	240	31%
市木・来尾線	243	186	129	114	142	-71%

表 市乗合タクシー・弥栄路線の年間利用者数（詳細）

路線名	年間利用者数(人)					H30年からの 増減幅
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
横谷・程原線	395	425	357	341	391	-1%
山賀・畑線	401	452	410	478	380	-6%
田野原・的野線	203	127	141	194	253	20%
安城・杵束線	50	78	32	28	38	-32%

第3章 市民の移動実態・公共交通に対する意識・ニーズ

1. 市民アンケート調査の概要

統計データ等で把握しきれない、地域住民の移動実態や移動に関する問題点、公共交通に対するニーズを把握するため町民を対象としたアンケート調査を実施しました。

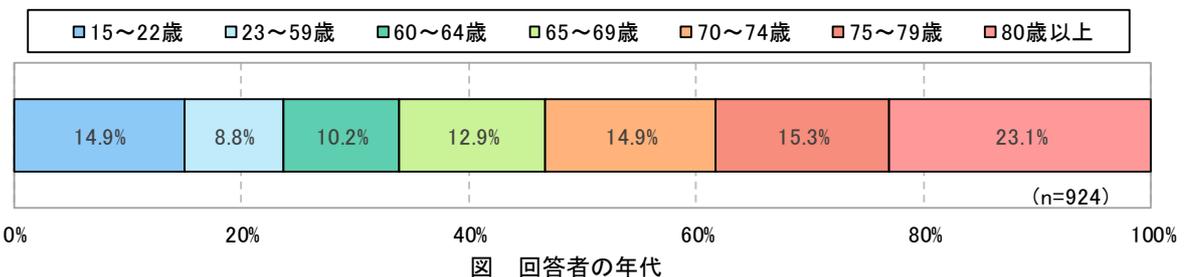
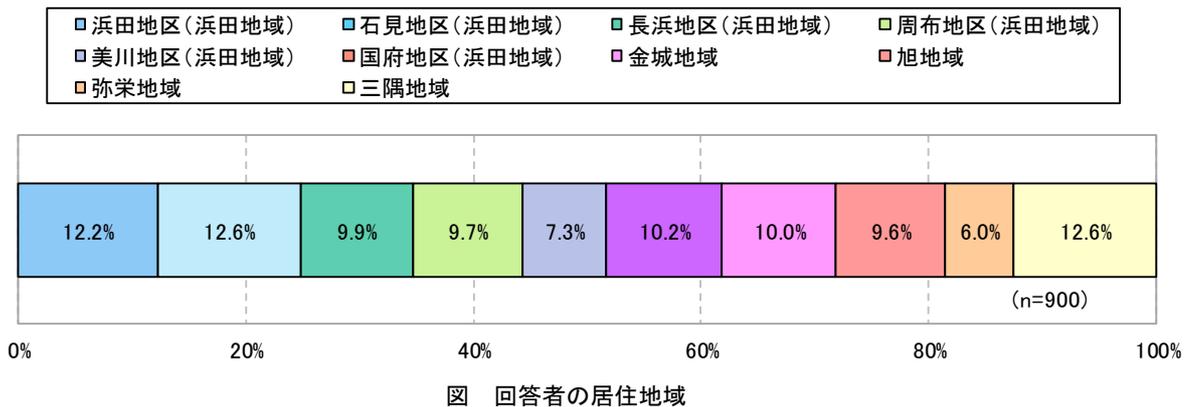
表 市民アンケート調査の概要

調査対象	満 15 歳以上の市民 2,000 人を住民基本台帳から無作為抽出 (地区に偏りは少なくサンプルを確保できるよう地域別に配布数を設定)
調査方法	郵送配布・郵送回収又は QR コードによるオンラインでの回答
実施期間	実施期間:令和 5(2023)年 9 月
回収状況	総配布数:2,000 部 回収票:930 部(回収率:46.5%)
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人属性(年齢、居住地区、職業、運転免許証の有無 等) ● 日常生活を中心とした移動の実態(通院・買物等) ● 公共交通の利用状況、利用する理由/しない理由 ● 敬老福祉乗車券の利用状況 ● 公共交通施策に対する考え方 ● 困りごと・移動に対する不安感 ● 自由意見

2. 回答者の属性

(1) 居住地域と年代

- いずれの地域からも一定数(50人以上)の回答が得られました。
- 回答者のおよそ 66%を 65 歳以上の回答者が占めており、およそ 53%が 75 歳以上の回答者が占めています。



(2) 運転免許証の保有状況

- 回答者の 65.3%が運転免許証を保有しています。
- 運転に不安を感じる人や返納をしたいと考えている人は、免許証保有している人のうち 15%を占めています。

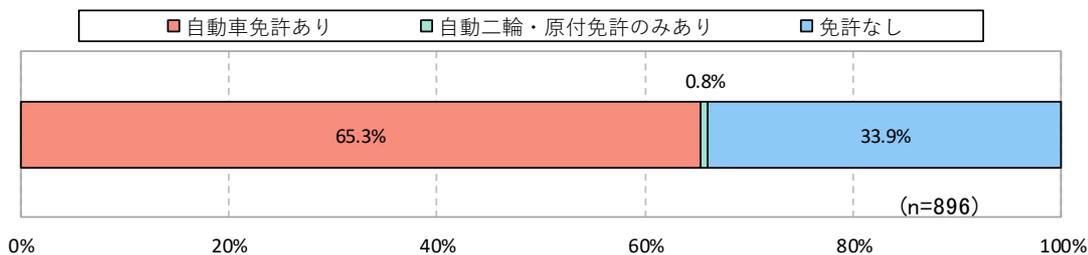


図 運転免許証の保有状況

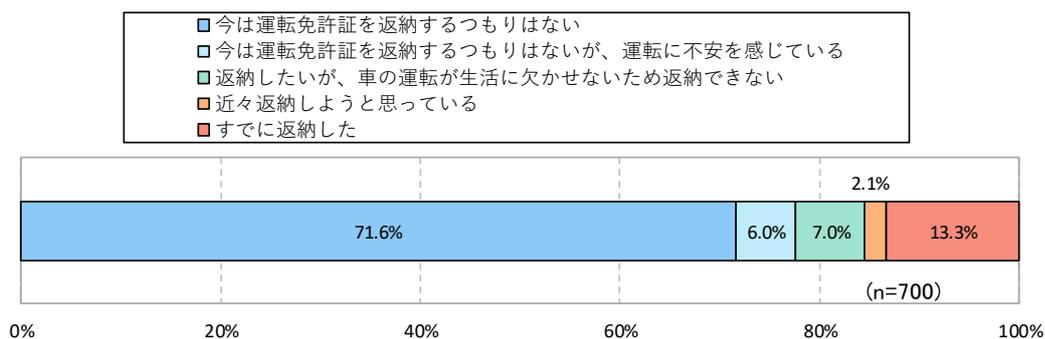


図 運転免許証の返納に関する意向

3. 移動の状況

(1) 通勤・通学の状況

- 通勤・通学者はアンケート回答者のおよそ 50%を占めています。
- 通勤・通学手段は自分が運転する車が最も多く、公共交通（鉄道、民間路線バス、市生活路線バス）を利用している人は 10%以下です。

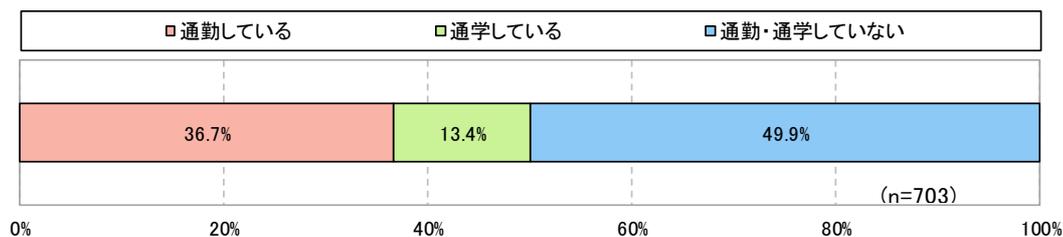


図 通勤・通学の有無

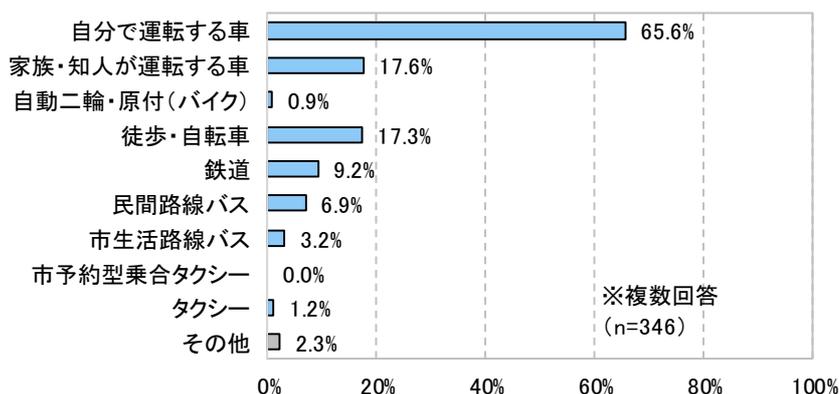


図 通勤・通学で利用している交通手段

(2) 通院の状況

① 通院の有無と利用している交通手段

- 回答者の61%が日常的に通院をしています。
- 利用交通手段は自分で運転する車が最も多く、次いで20.8%が送迎によって通院しています。また、民間路線バスや市生活路線バスよりタクシーを利用して通院している人が多い傾向が見られます。
- 送迎によって通院する人の割合は旭地域、三隅地域、三隅地域が20%を超えており、市乗合タクシーは弥栄地域、タクシーは浜田地域が他の地域に比べて割合が高くなっています。

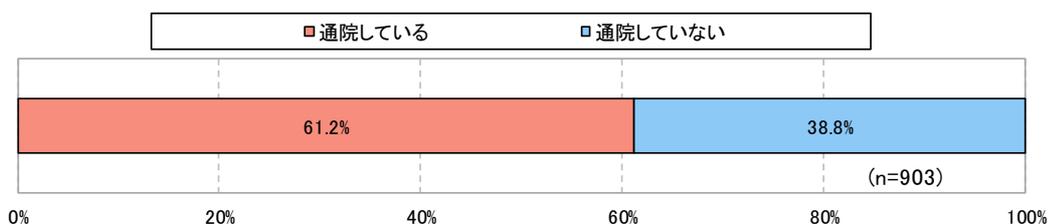


図 通院の有無

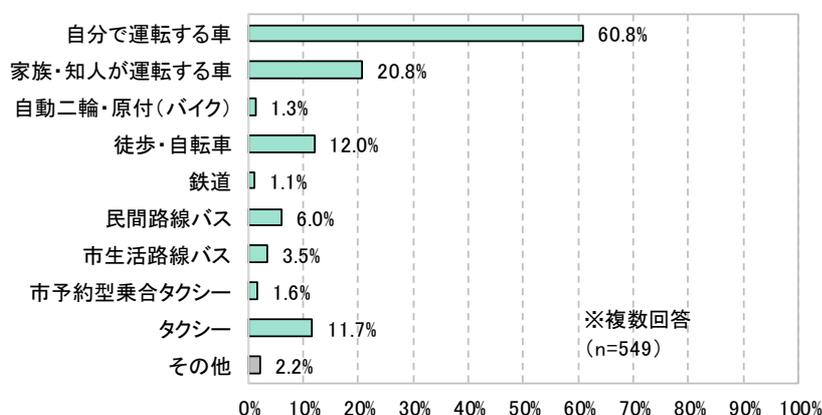


図 通院で利用している交通手段（全体）

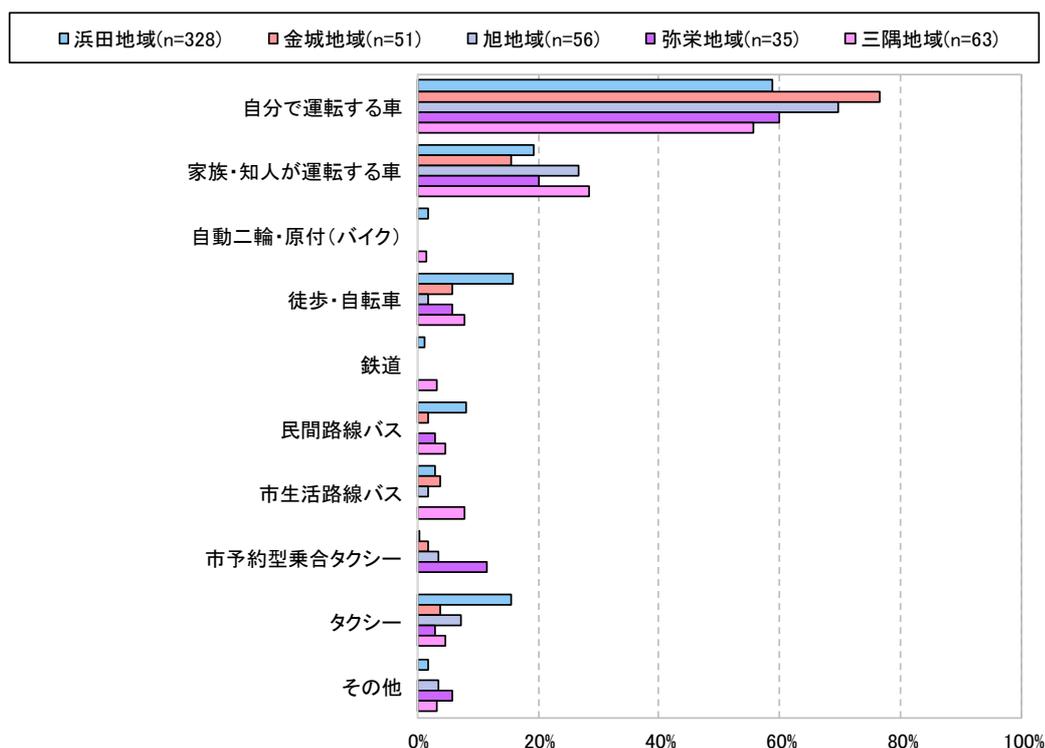


図 通院で利用している交通手段（地域別）

② 通院先の状況(上位 5 件)

- 浜田地域の中でも、浜田地区と石見地区は浜田医療センター、さかね内科、丸山内科クリニックが上位に挙がっています。
- 長浜地区、周布地区、美川地区、国府地区においても浜田医療センターが上位 5 位以内に挙がっており、最上位はいずれも地区内に立地している医療機関となっています。
- 金城地域、旭地域、弥栄地域はいずれも最も多く回答があった医療機関は地域内の診療所です。また、上位 3 位以内に浜田医療センターが挙がっています。
- 三隅地域の上位 3 位は、いずれも地域内の医療機関でした。

表 地域別通院先の上位 5 位（浜田地域）

浜田地区	件数	石見地区	件数
浜田医療センター	18	浜田医療センター	13
さかね内科	6	丸山内科クリニック	8
丸山内科クリニック	6	さかね内科	7
中村医院（片庭町）	5	おさだ眼科クリニック	6
彌重内科眼科医院	5	岡本胃腸科内科医院	6

長浜地区	件数	美川地区	件数
山根病院	10	中村呼吸器内科医院	10
浜田医療センター	9	浜田医療センター	5
中村胃腸科内科医院	8	おさだ眼科クリニック	4
三隅整形外科医院	5	丸山内科クリニック	4
さかね内科	4	中村胃腸科内科医院	4
もりわき眼科	4		
中村医院（片庭町）	4		

周布地区	件数	国府地区	件数
都医院	15	やすぎクリニック	13
浜田医療センター	11	浜田医療センター	9
小池医院	8	丸山内科クリニック	7
山根病院	6	真鍋医院	7
三隅整形外科医院	3	北村内科クリニック	7

表 地域別通院先の上位 5 位（金城地域、旭地域、弥栄地域、三隅地域）

金城地域	件数	旭地域	件数
金城沖田医院	14	浜田市国民健康保険あさひ診療所	18
浜田市国民健康保険 波佐診療所	11	上田医院	11
浜田医療センター	8	浜田医療センター	10
丸山内科クリニック	5	丸山内科クリニック	6
中村整形外科	3	岡本胃腸科内科医院	3

弥栄地域	件数	三隅地域	件数
浜田市国民健康保険弥栄診療所	26	寺井医院	18
浜田医療センター	5	中村医院（三隅）	15
山根病院	2	野上医院	11
		浜田医療センター	8
		もりわき眼科	4
		三隅整形外科医院	4
		山根病院 三隅分院	4

※弥栄のみ上位 3 件を記載（4 位以下の回答件数がいずれも 1 件であったため）

(3) 買物の状況

① 買物の有無と買物で利用している交通手段

- 回答者の74%が日常的に買物に出かけています。
- 利用交通手段は自分で運転する車が最も多く、次いで19%が送迎によって買物に出かけており、路線バスや市生活路線バスよりタクシーを利用している人が多い等、通院と同じ傾向が見られます。
- 通院と比べ、民間路線バスや市生活路線バスの割合は大きく変わらないものの、タクシーの割合は若干減少しています。また、各地域での大きな違いも見られません。

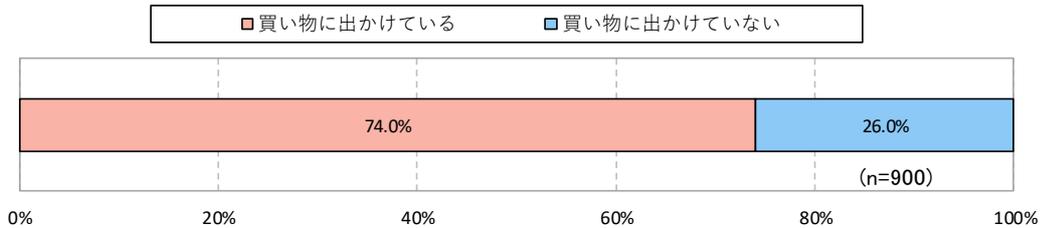


図 買物によるお出かけの有無

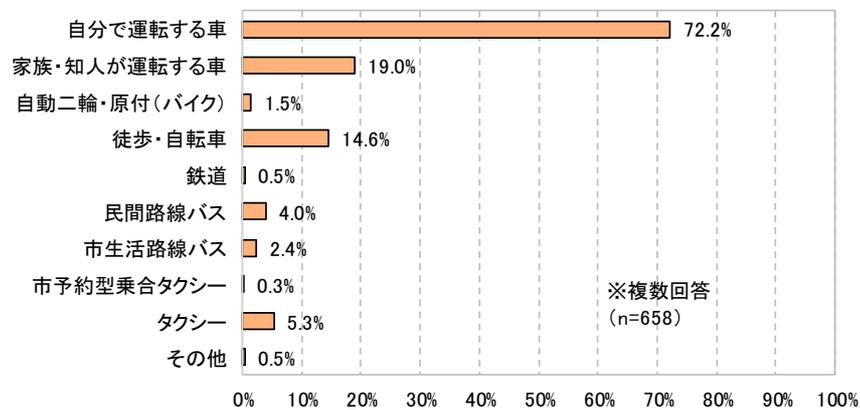


図 買物で利用している交通手段(全体)

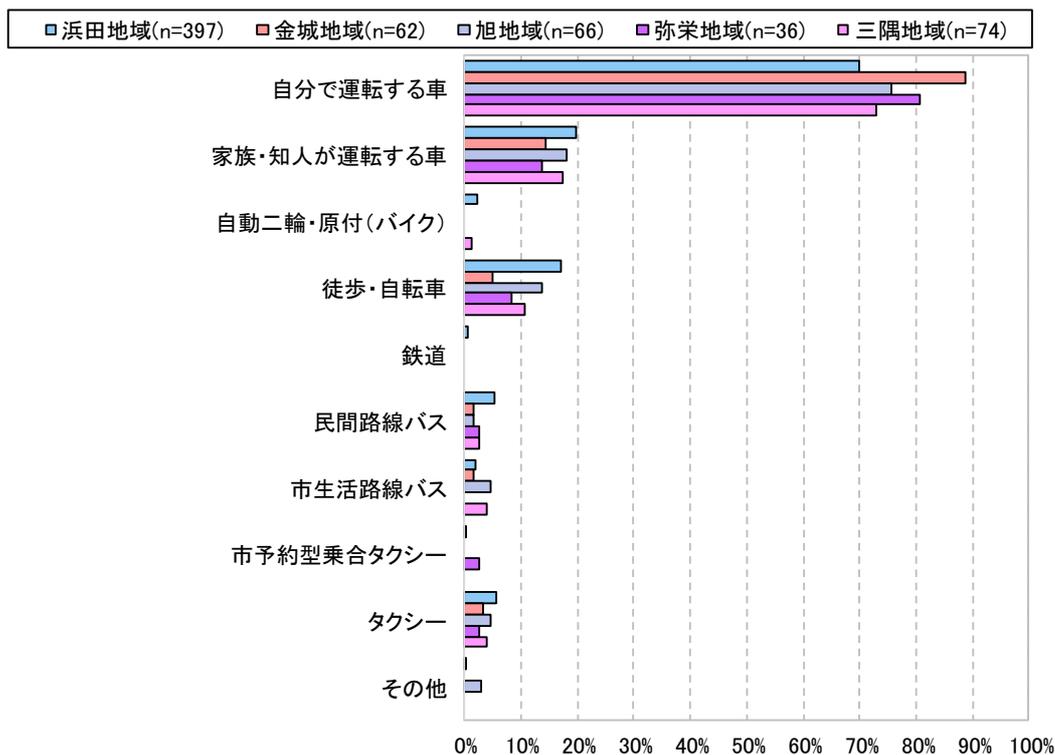


図 買物で利用している交通手段(地域別)

② 買物先の状況

- 浜田地域では、長浜地区、周布地区、美川地区で最上位にトライアル浜田店（周布）が挙げられており、国府地区では地域内の買物先や石見地区の買物先が挙げられています。
- 金城地域、旭地域では地域内の買物先が最上位に挙げられ、2位はいずれも市中心部の買物先が挙げられています。
- 弥栄地域では地域内の買物先より浜田地域（周布地区や浜田地区）の買物先の回答件数が多くなっています。
- 三隅地域では地域の買物先や周布地区、益田市の買物先が挙げられています。

表 地域別買物先の上位5位（浜田地域）

浜田地区	件数	石見地区	件数
ゆめタウン浜田	41	シティパルク浜田	45
シティパルク浜田	13	キヌヤ プリル店	24
トライアル浜田店	13	キヌヤ 長澤店	16
キヌヤ プリル店	11	ゆめタウン浜田	15
フーズセンター エビス	11	スーパー ダップス	10

長浜地区	件数	周布地区	件数
トライアル浜田店	31	トライアル浜田店	45
ゆめタウン浜田	23	キヌヤ ひなし店	12
キヌヤ 笠柄店	18	ゆめタウン浜田	11
コスモス 熱田店	5	キヌヤ 笠柄店	5
斉藤食料品店	5	キヌヤ プリル店	3
		シティパルク浜田	3
		ホームプラザナフコ 浜田店	3

美川地区	件数	国府地区	件数
トライアル浜田店	22	キヌヤ 国府店	21
ゆめタウン浜田	14	キヌヤ 長澤店	21
キヌヤ 笠柄店	9	シティパルク浜田	15
キヌヤ ひなし店	4	ゆめタウン浜田	11
シティパルク浜田	4	キヌヤ プリル店	7
キヌヤ プリル店	3		

表 地域別通院先の上位5位（金城地域、旭地域、弥栄地域、三隅地域）

金城地域	件数	弥栄地域	件数
キヌヤ 金城店	28	トライアル浜田店	12
シティパルク浜田	20	ゆめタウン浜田	11
ゆめタウン浜田	11	Aコープ やさか店	9
キヌヤ プリル店	10	キヌヤ サンプラム店	3
キヌヤ 長澤店	3	キヌヤ 笠柄店	2
キヌヤ 二宮店	3		
コスモス 熱田店	3		
ジュンテンドー 浜田店	3		
スーパー ダップス	3		

三隅地域	件数	旭地域	件数
キヌヤ サンプラム店	32	Aコープあさひ	16
トライアル浜田店	22	シティパルク浜田	13
Aコープ みすみ店	10	サワレン商店	11
ゆめタウン浜田	8	ゆめタウン浜田	10
ゆめタウン益田	7	Aコープ（店舗名未回答）	9

③ 買物に出かけない理由

- 買物に出かけない理由として、買物をしていない人の9割は家族が買物しているからと回答しています。
- 交通手段がないため買物に出かけていない人は4.7%です。

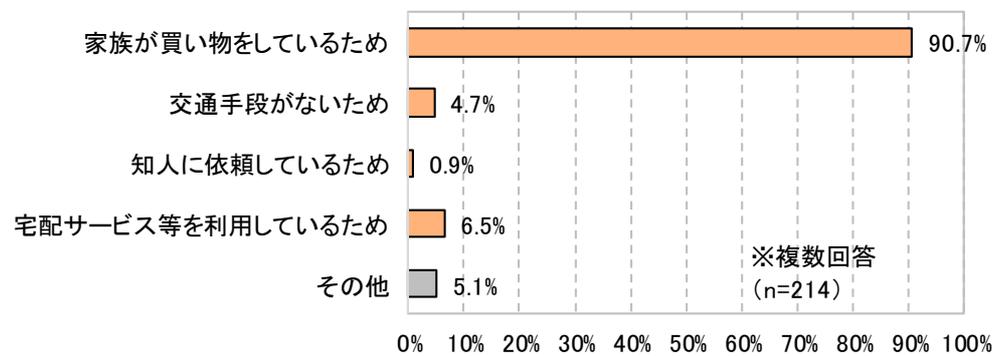
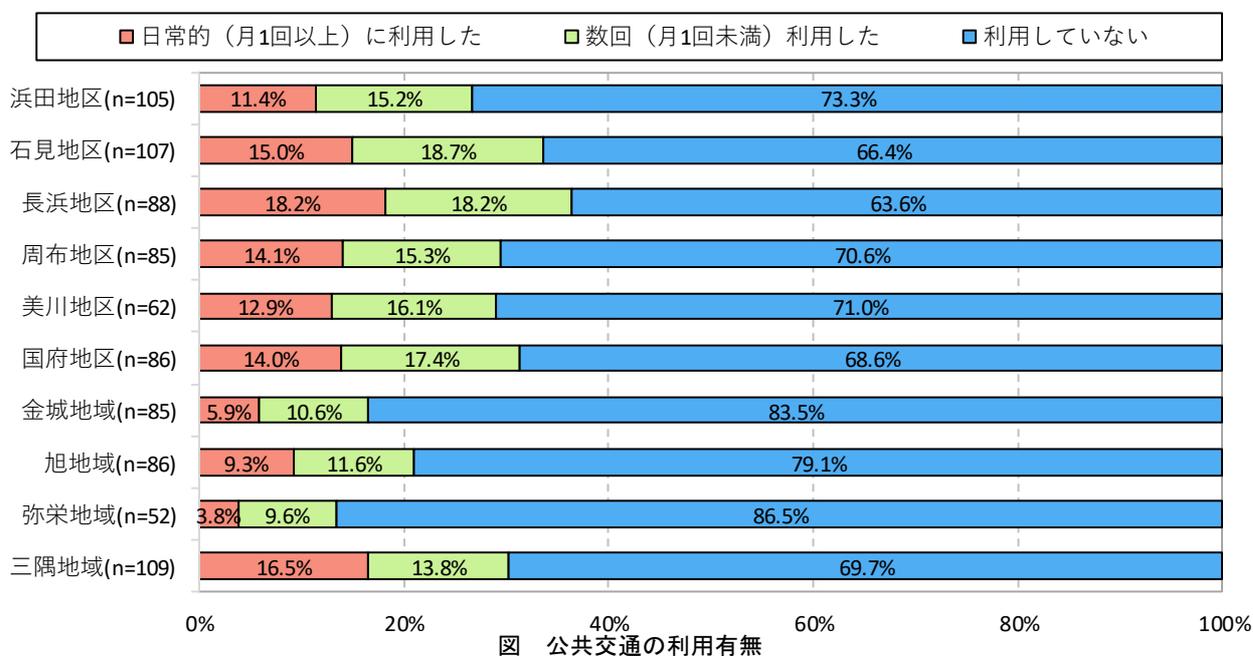


図 買物に出かけない理由

4. 公共交通の利用状況

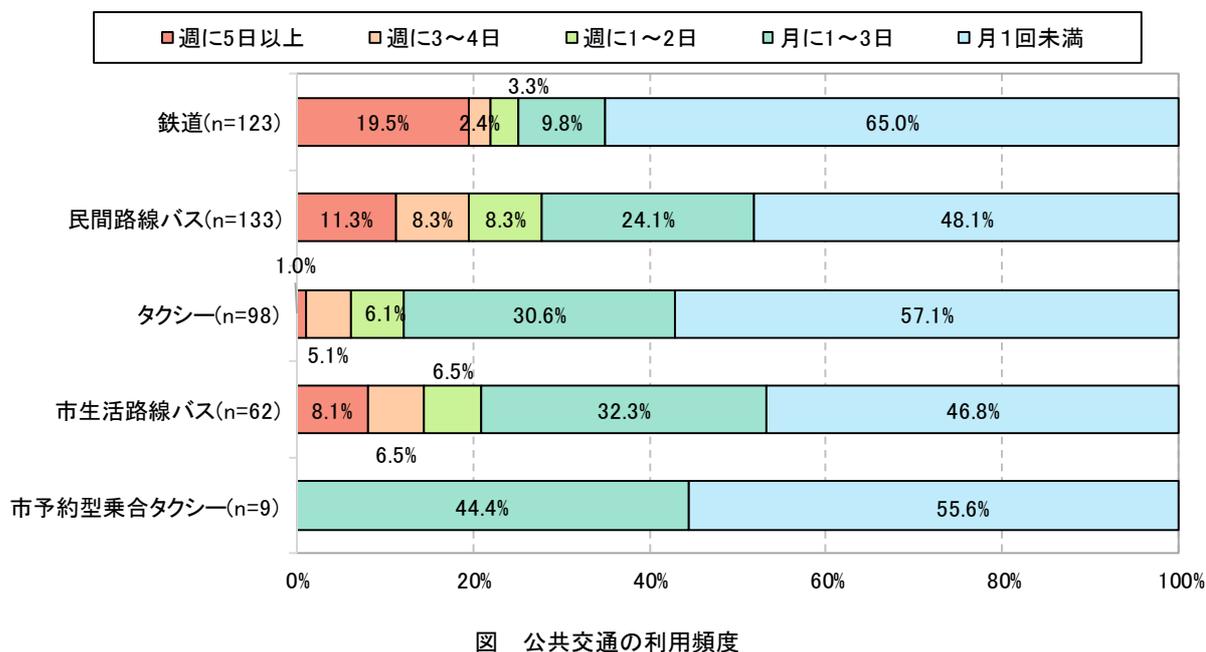
(1) 公共交通利用の有無

- 公共交通を利用している人の割合を地域別に見ると、浜田地域の各地区と三隅地域の割合が比較的高くなっています。
- 金城地域、旭地域、弥栄地域は、日常的に公共交通を利用している人の割合が10%を下回っています。



(2) 公共交通の利用頻度

- 利用頻度が最も高い交通手段は鉄道で、利用している人のおよそ2割が週に5日以上利用しています。
- 民間路線バスは133人が利用しており、週3日以上利用している人が2割程度を占めています。
- タクシーと市生活路線バスは、月に1～3日程度利用している人の割合が比較的大きく、30%を超えています。



(3) 公共交通を利用していない理由

- 公共交通を利用しない理由として、いずれの地域でも「自家用車で移動できるため」が最も多く、次いで「送迎で移動できるため」となっています。
- 「送迎で移動できるため」や「運賃が高いため」と回答した人の割合は、弥栄地域が比較的多いです。
- 「徒歩や自家用車で移動できるため」は、浜田地域のみ 20%を超えており、その他の地域は 10%を下回っています。

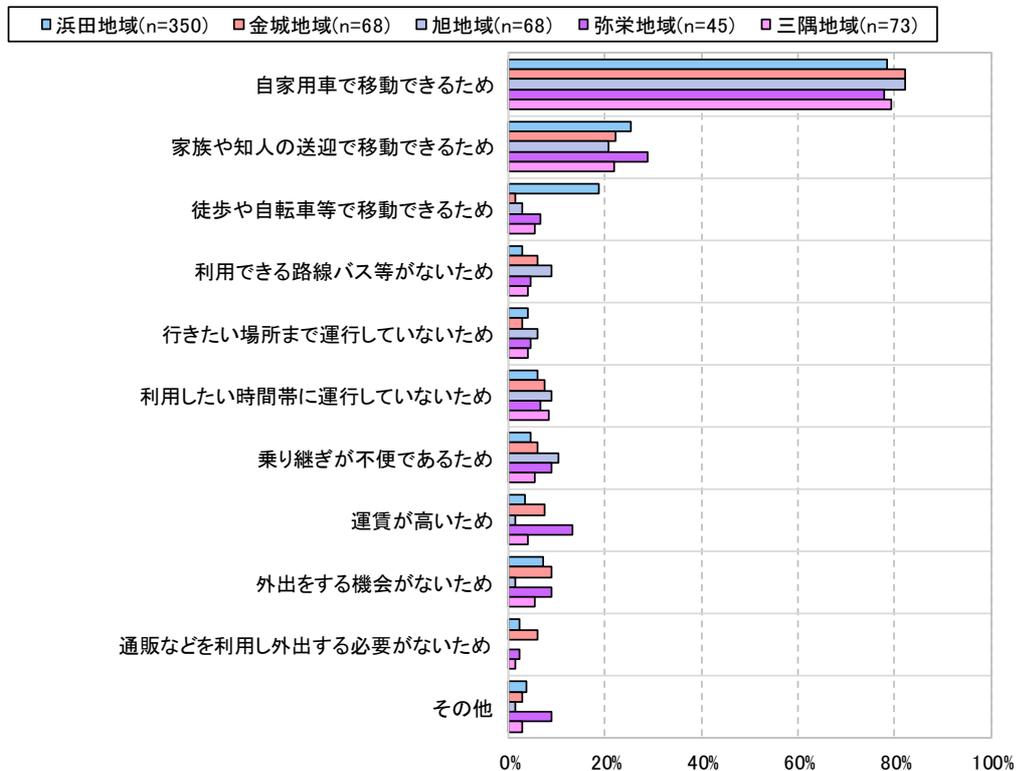


図 公共交通を利用していない理由

(4) 公共交通の不便感

- 公共交通が不便なために生活に支障をきたしていることや我慢していることは、浜田地区、石見地区、周布地区以外で「ある」の割合が 20%を超えており、国府地区で最も高くなっています。

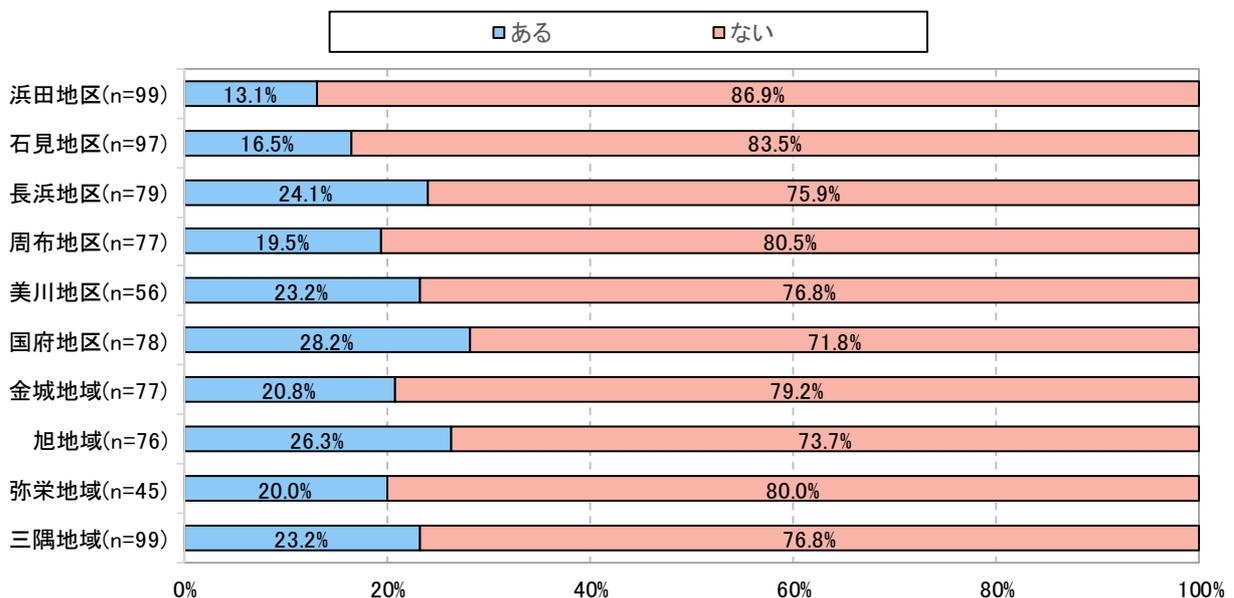


図 公共交通が不便なために生活に支障をきたしていることや我慢していることの有無

5. 敬老福祉乗車券の利用状況

(1) 敬老福祉乗車券の利用状況

- 敬老福祉乗車券を利用している人は17.7%で、各地域及び浜田地域の各地区いずれも10%以上を占めています。
- 浜田地域で割合が高く、石見地区と長浜地区では20%を超えています。
- 利用している交通手段はタクシーが最も多く、特に浜田地域で比較的多くの人が利用しています。

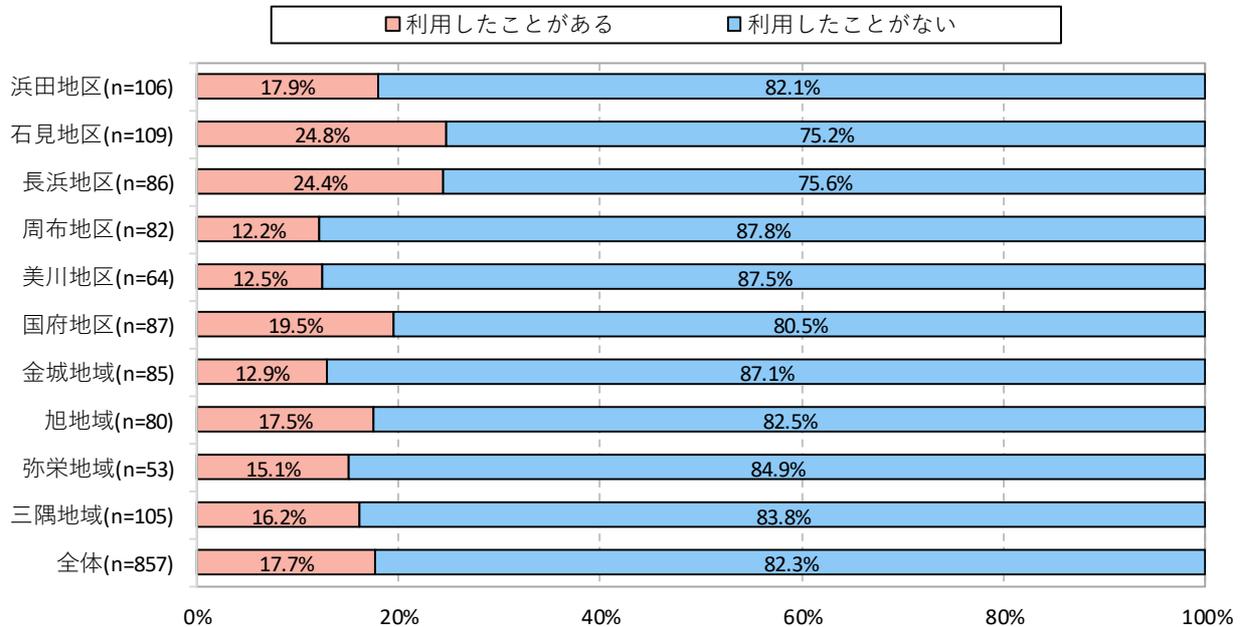


図 敬老乗車券の利用状況

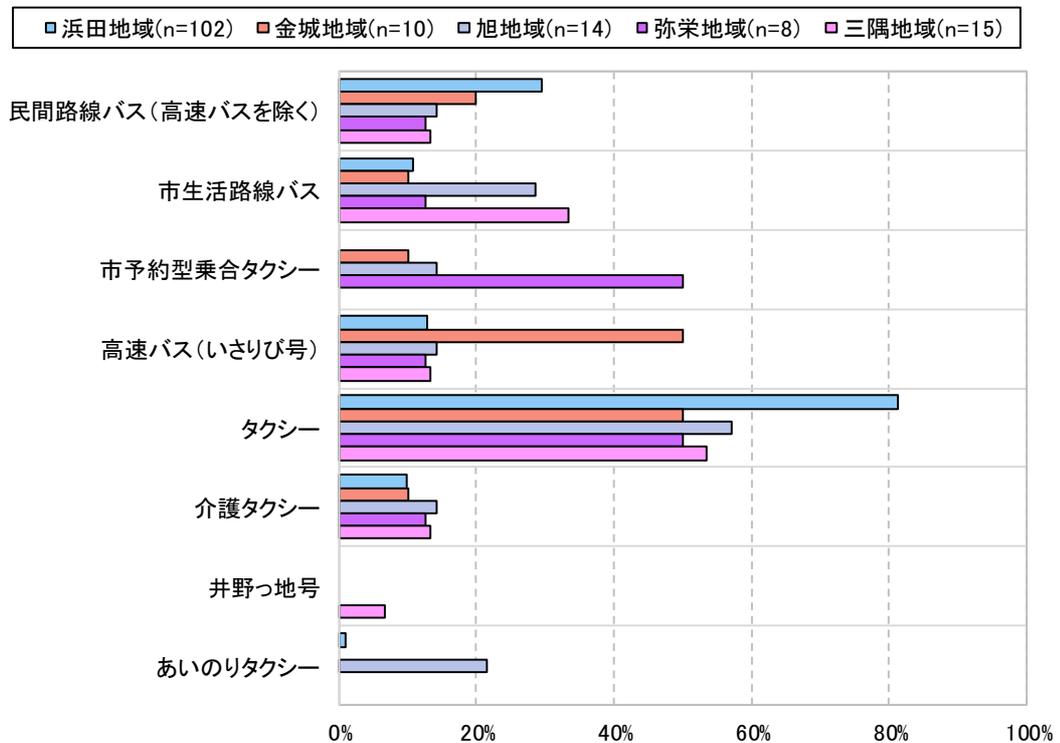


図 敬老福祉乗車券を使用して利用している交通手段

(2) 敬老福祉乗車券の効果

- 敬老福祉乗車券により外出回数が増えたと回答した人は全体の21.3%を占めています。
- 地域別に見ると浜田地域の石見地区や長浜地区、三隅地域で外出回数が増えたと回答した人の割合が高くなっています。

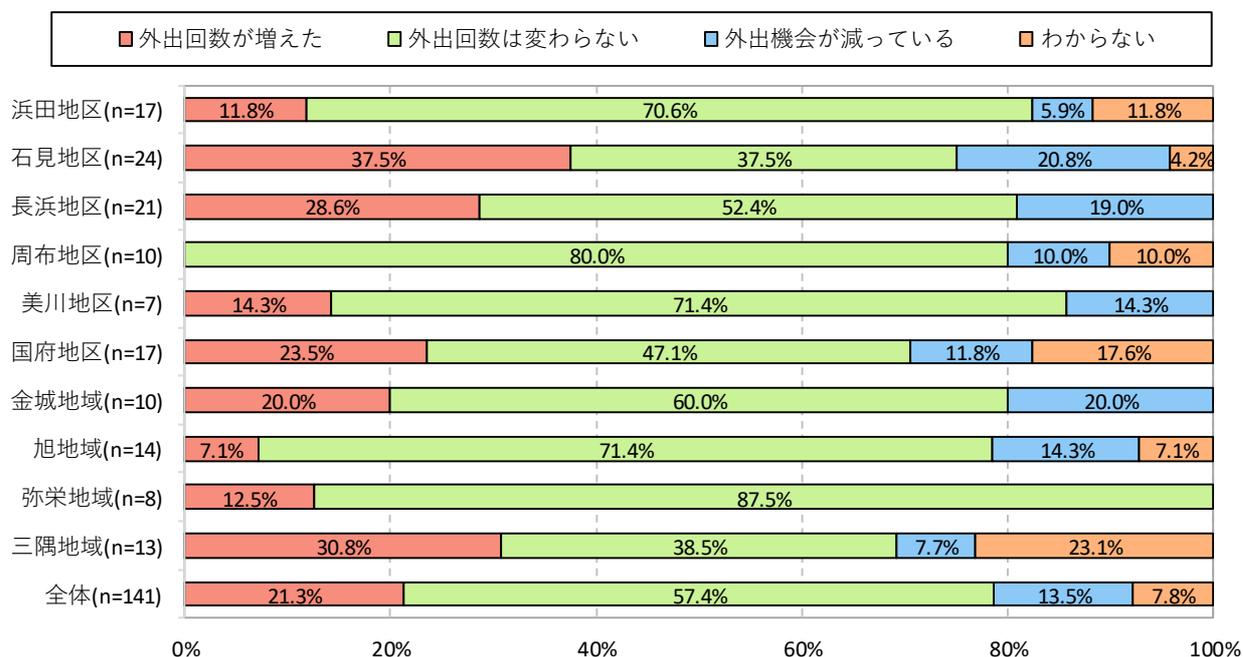


図 敬老乗車券購入後における外出状況の変化

(3) 敬老福祉乗車券を使用(購入)していない理由

- 敬老福祉乗車券を購入していない理由としては、「制度内容を知らない」と回答した人の割合は13.6%で実数では94人になります。

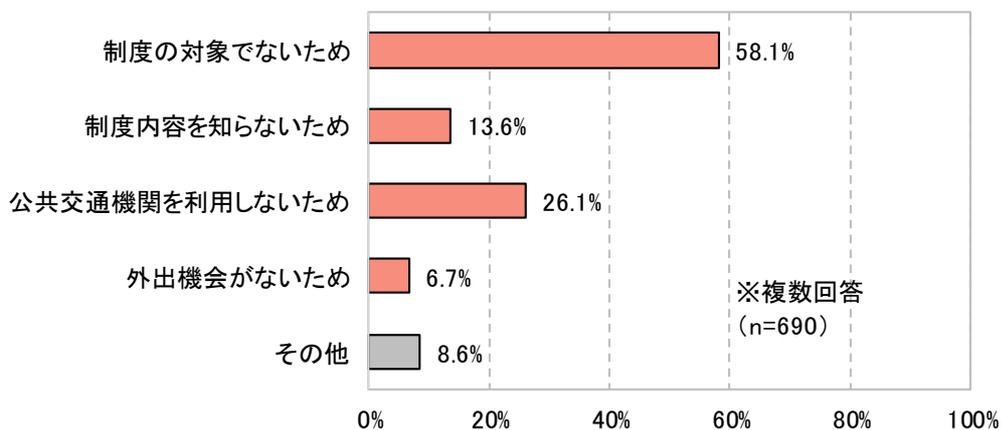


図 敬老福祉乗車券を使用(購入)していない理由

6. 今後の浜田市における公共交通の維持確保や取組への意向

(1) 将来の公共交通のあり方

- 将来の交通のあり方について、選択肢の中では「市の負担が増えたとしても、できる限り現状維持を目指す」が最も割合としては大きく、全体では 37.9% を占めています。
- 「市の負担が増えたとしても、できる限り現状維持を目指す」を回答した人を地域別に見ると、浜田地域では長浜地区、浜田地域以外では旭地域、弥栄地域、三隅地域で 40% を超えており、比較的割合が大きくなっています。
- 「利用の少ない路線は廃止を検討し、地域住民主体の輸送手段を推進していく」は、浜田地域では浜田地区・美川地区・国府地区、浜田地域以外では金城地域で 30% を超えており、比較的割合が大きくなっています。

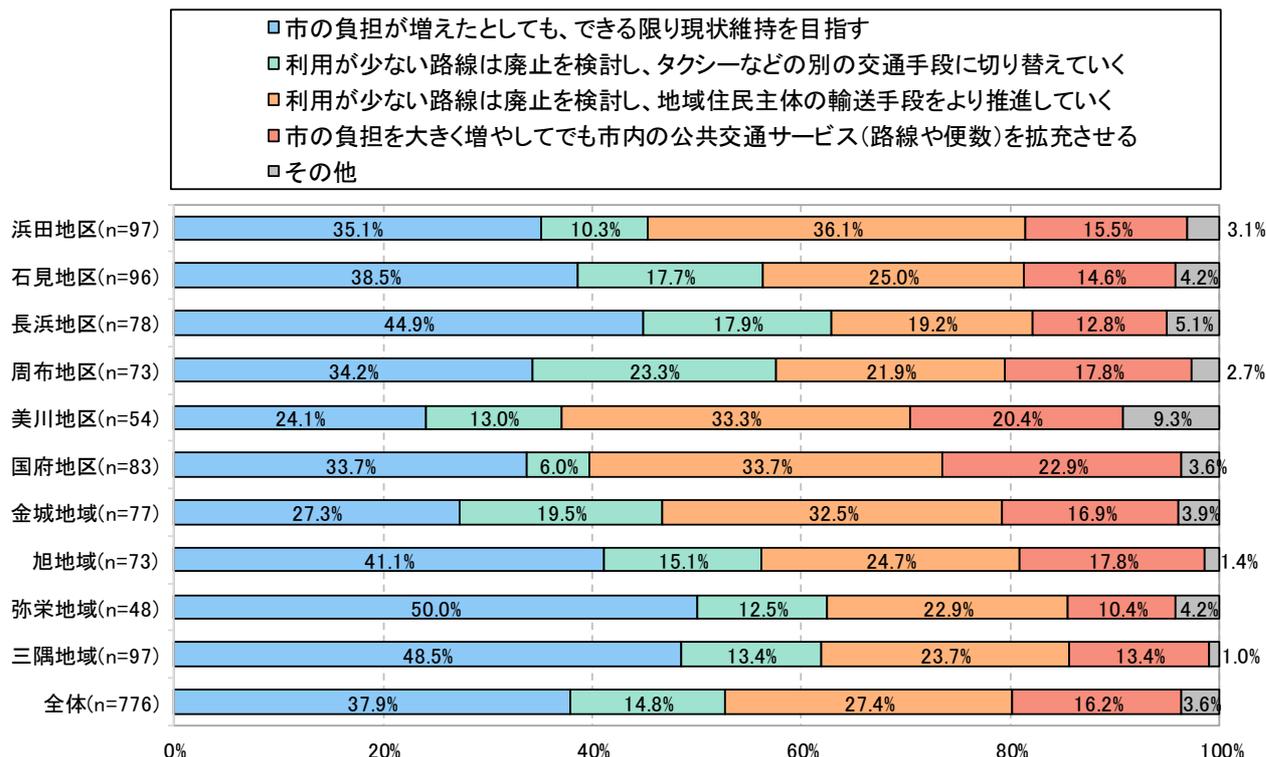


図 将来の公共交通のあり方

(2) 力を入れた方が良いと思う取組

- 特に力を入れた方が良いと思う取組は「敬老福祉乗車券の継続」が全体で最も多く、58.4%が回答しています。次いで「市生活路線バスのサービス拡充」「運転者不足の交通事業者への支援」となっています。
- 「敬老福祉乗車券の継続」は三隅地域以外の地域で回答が多く、「市生活路線バスのサービス拡充」は金城地域以外の地域で回答が多い傾向にあります。
- 「市乗合タクシーのサービス充実」は弥栄地域のみ 30%を超えています。
- 「運転者不足の交通事業者への支援」は浜田地域で 30%を超えています。
- 「自治会輸送などへの支援」は旭地域のみ 20%を超えています。

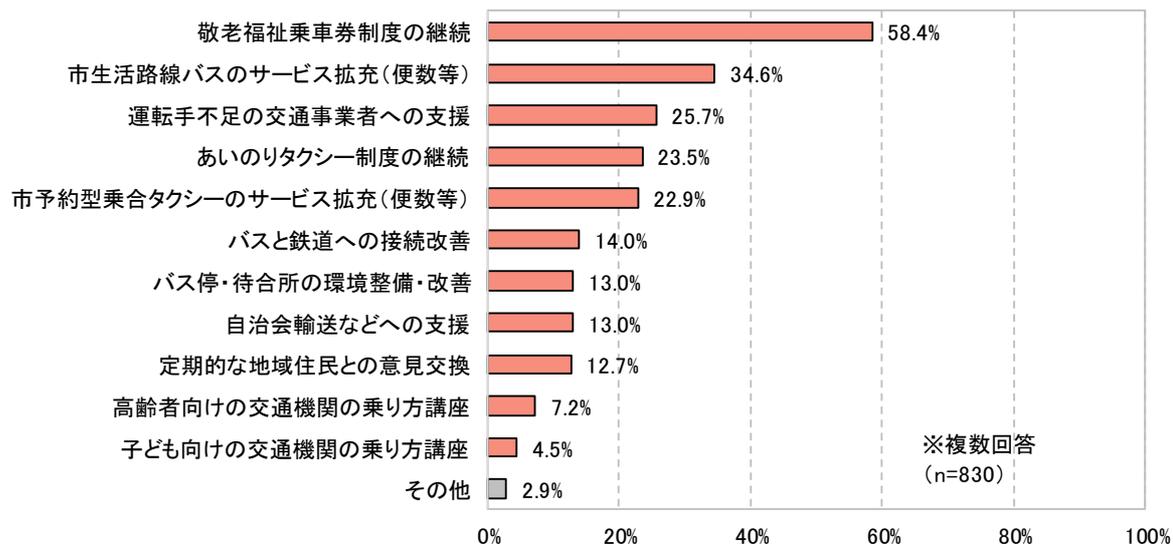


図 力を入れた方が良いと思う取組 (全体)

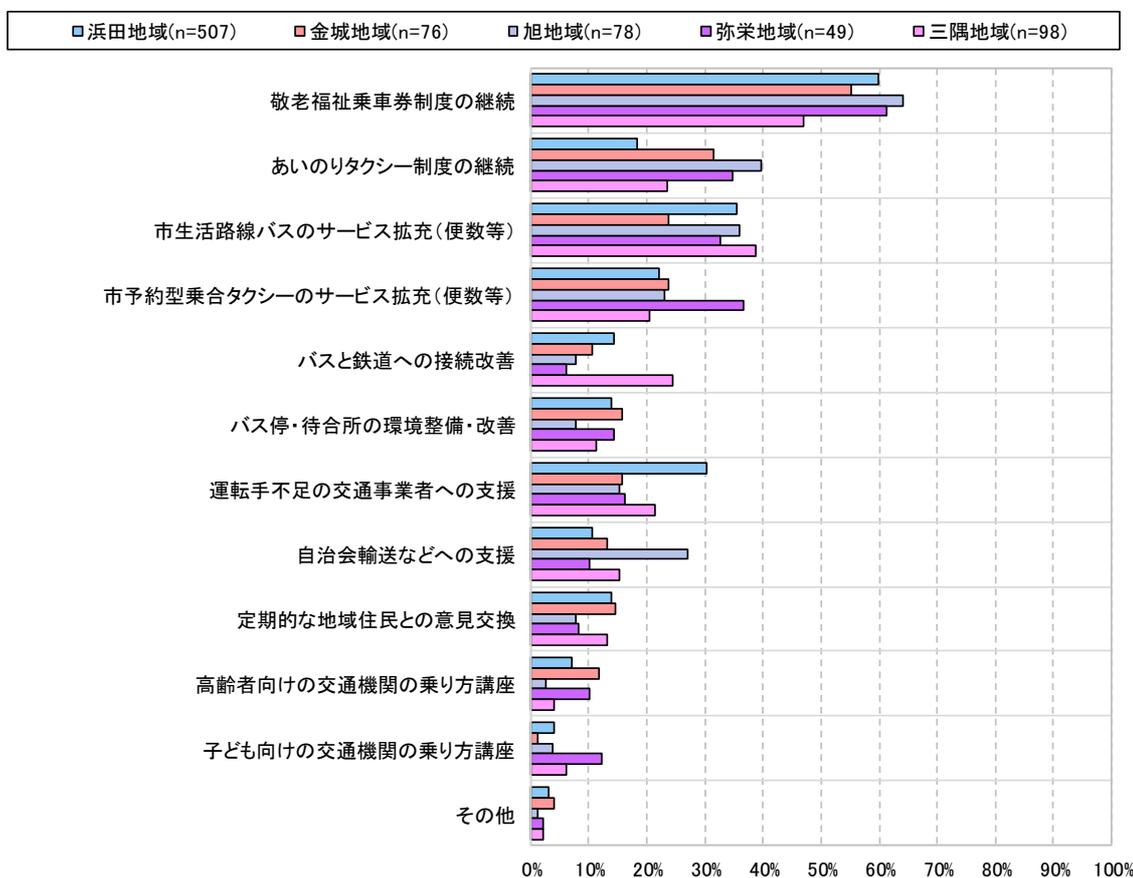


図 力を入れた方が良いと思う取組 (全体)

第4章 現状整理と今後の予定

1. 現状からわかること

(1) 人口や施設の立地状況、公共交通の整備状況より

- 人口減少や高齢化は依然として進んでおり、山間部の地域ではより顕著になっています。
- 医療や買物、公共機関等の機能は浜田地域に集中しており、タクシー営業所の立地状況やバスの便数も地域で異なることから、**地域によっては移動環境や生活環境の差が大きい**状況です。
- 市乗合タクシーの運行や路線バスの再編等により、市内の公共交通空白地域の範囲は縮小されつつありますが、地域の**中心部から離れた山間部においては、公共交通を利用しにくい集落が見られます。**

(2) 公共交通の利用者数より

- コロナ禍の影響もあり、公共交通の**利用者数は令和2年を境に大きく減少**し、令和4年時点でもコロナ禍前の水準には戻っていない状況です。また、**市生活路線バスについては、ほとんどの路線で利用者が大きく減少**しています。
- いずれも児童・生徒及び定期券利用者の減少等が要因として考えられ、それらの利用者が多くを占めている市生活路線バスの減少幅が大きくなっています。

(3) アンケート調査結果より

- 通院時の移動手段においては、浜田地域ではタクシー、旭地域・弥栄地域・三隅地域では送迎、弥栄地域では市乗合タクシーの割合が高い等、地域によって違いが見られました。一方で買物においては地域によって大きな違いが見られず、浜田地域のみ路線バスの利用割合が若干高くなっています。
- **敬老福祉乗車券が外出増加に寄与**していることがわかりました。また、敬老福祉乗車券は主にタクシーで使われており、地域内に事業所が多く立地していることから、**浜田地域の利用者が比較的多くなっています。**
- 将来の公共交通のあり方について、「**市の負担が増えたとしても、できる限り現状維持を目指す**」が全体として多く、地域別に見ると**弥栄地域や三隅地域、浜田地域の長浜地区**で割合が高くなっています。一方で、**金城地域や浜田地域の美川地区**においては、「現状維持」よりも「**住民主体の移動手段をより推進していく**」の割合が高くなっています。
- 今後、力を入れた方が良くと思う取組について、「**敬老福祉乗車券制度の継続**」が各地域で**最も割合が高くなっていますが、金城地域・旭地域・弥栄地域では「あいのリタクシー制度の継続」、弥栄地域では「市乗合タクシーのサービス拡充」、三隅地域では「バス・鉄道への接続改善**」の割合が高くなっており、利用されている交通手段等によって回答結果に違いが見られます。

2. 今後の調査及び計画策定の方向性

- アンケート調査で把握した移動の状況や公共交通に対する意識・公共交通へのニーズ、地域ごとの特徴に加えて、交通事業者等へのヒアリング調査を通じて運転者不足が大きな問題となっている中、供給側が抱える問題点を把握し、将来に渡って公共交通を維持していく上での課題を抽出します。
- 上記の結果を踏まえて、路線再編や敬老乗車券等、取組の効果と課題を整理し、第2次再編計画の評価を行います。また、民間路線バス及び市生活路線バスは必要に応じて見直しの方向性を検討します。
- 次回協議会では、上記を基に浜田市全体及び各地域の移動に対する課題を抽出し、今後の取組における基本方針や施策の方向性を示した計画素案に対して協議します。

以上